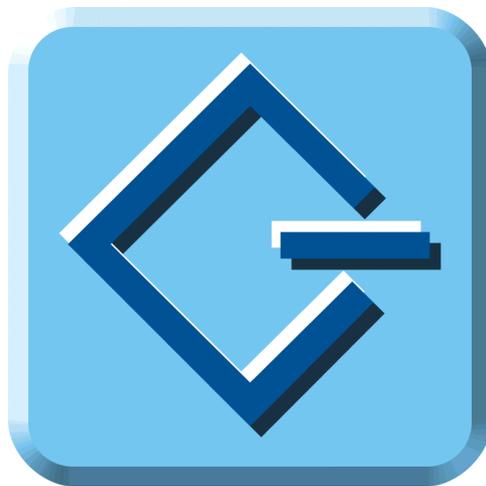




*Ultra Wide SCSI
PCI BOARD
REX-PCI33*

For DOS/V
ユーザーズマニュアル



1999年4月
第1.0版

目次

ユーザーズマニュアル

はじめに	1
ご注意	1
安全にお使いいただくために必ずお読みください	2
本文中の記号説明	2
製品の特徴	4
対応パソコンと対応 OS(オペレーティングシステム)	5
梱包品について	6
お問い合わせをする前に	7
製品に関するお問い合わせ	8
1 . REX-PCI33 について	9
添付のソフトウェアについて	9
制限	10
空きの IRQ を確認する	10
Windows 98/95 の場合	10
Windows NT の場合	11
DOS/Windows 3.1 システムの場合	12
2 . SCSI ボードの取り付け	13
接続できる台数とケーブルの長さ	16
ケーブル接続例	17
3 . パソコンの PCI バスの確認・設定	21
PCI バスの確認	21
4 . SCSI コンフィギュレーションの設定	23
SCSI-BIOS メニュー	23
5 . Windows 98/95 インストール済みにて使用する	29
Windows 98 ミニポートドライバのインストール	29
Windows 95 ミニポートドライバのインストール	31
Windows 98/95 ミニポートドライバのインストール確認	33
SCSI ユーティリティのインストール	36
SCSI 機器の確認	37
スワップファイルを SCSI ハードディスクに	38
6 . Windows 98/95 での SCSI ユーティリティについて	39
REXFMT95 - Windows 98/95 専用 SCSI フォーマットユーティリティ	39
WinSSC - Windows 98/95 用 SCSI 機器接続確認ユーティリティ	41
SCUINICW - SCSI コンフィギュレーションユーティリティ	43
プログラム起動方法	43
コンフィギュレーション画面	44

目次

7 . 起動ディスク(DOS)での使用について	45
Windows 98 起動ディスクの編集	45
Windows 95 起動ディスクの編集	46
Drive Image 起動ディスクの編集	47
SCSI CD-ROM をアクセスする	48
SCSI DVD-RAM をアクセスする	48
ASP850.SYS のパラメタ	49
REXCD.SYS のパラメタ	49
REXDISK.SYS のパラメタ	51
8 . Windows NT インストール済みにて使用する	55
Windows NT に SCSI アダプタ (ドライバ) を追加	55
ドライバ起動の確認	57
ドライバの有効/無効の切り替え	59
スワップファイルを SCSI ハードディスクに	60
SCSI ユーティリティのインストール	61
9 . Windows NT 用 SCSI ユーティリティについて	63
プログラム起動方法	63
コンフィギュレーション画面	64
10 . DOS/Windows 3.1 で使用する	65
DOS システムのインストール	65
CONFIG.SYS の書き換え	66
AUTOEXEC.BAT の書き換え	66
Windows 3.1 での ASPI モジュールの組み込み方法	66
11 . DOS 用 SCSI ユーティリティについて	67
REXFMT.EXE - ディスク・フォーマット・コマンド	67
書式 1 - ハードディスクの初期化	67
書式 2 - 光磁気ディスク (MO) の初期化	68
書式 3 - 区画の確保	68
書式 4 - 区画の削除	68
書式 5 - 区画属性の変更	68
SSC.EXE - SCSI 機器接続確認コマンド	68
12 . 仕様について	69
REX-PCI33 SCSI・BUS 仕様	69
REX-PCI33 環境仕様	69
CN1, CN3 接続コネクタ仕様	70

目次

13 . トラブルシューティング	71
REX-PCI33 のドライバを完全削除するには(Win98/95)	71
Windows 98 でドライバ更新する場合	73
Windows 95 でドライバ更新する場合	76
データ転送中にハングアップしたり VXD 中断画面になったりする場合	78
IDE の CD-ROM が使えない場合	78
SCSI-BIOS スタート画面が表示されない場合	78
SCSI 機器に対して転送速度を設定する場合 (Win98/95)	79
FUJITSU MO(M2512A,M2513A) を使用の場合	79
ドライバがインストールされていないとなる場合 (Win98/95)	79
全体的なシステムのパフォーマンスが低下しますと表示される場合 (Win98/95)	80
PD、Changer の一部が認識できない場合 (DOS/Windows 3.1)	80
スキャナを検出できない場合 (Windows NT)	80
ドライブ名が割り当たらない場合 (Windows NT)	80
その他のデバイスに PCI SCSI BUS Controller が表示される場合 (Win98/95)	81
その他のデバイスに PCI Brige として登録される場合 (Win98/95)	81
PC98-NX でデバイスマネージャの画面が表示されない場合 (Win98/95)	81
PC98-NX で SCSI ハードディスクより起動する場合	82
SCSI HD が second IDE HD より前のドライブ名となる場合	82
SCSI-BIOS の起動画面を非表示にしたい場合	82
UltraSCSI 対応機器が SCSI-2 と表示される場合	83
REX-PCI33 を装着するとシステム起動が遅くなる場合	83
不明なデバイスが検出されると表示の場合	83
フォーマットユーティリティ (REXFMT95) で CDR, CDRW, DVD が認識されない	84
SCSI 機器接続確認で準備ができていませんと表示される	84

はじめに

このたびは REX-PCI33 Ultra Wide SCSI PCI ボードお買い上げ頂き誠にありがとうございます。今後もドライバのバージョンアップなど、より一層のサポートを充実していきますので未永くご愛用賜りますようお願い申し上げます。

本書は、REX-PCI33の導入ならびに運用方法を説明したマニュアルです。REX-PCI33を正しくお使い頂くため、ご使用前に必ず本書をよくお読みください。

なお、次ページからの「安全にお使いいただくためにはじめにお読みください」をまずお読みください。

また、添付ディスクに入っているREADMEファイルには本マニュアルに記載できなかった最新情報がありますので合わせてご覧ください。

ご注意

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤りなどにお気づきになりましたらご連絡願います。
- 運用の結果につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- 本製品の保証や修理に関しては、添付の保証書に記載されております。必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。
- SmartSCSIとはInitio Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ASPI マネージャ、miniport ドライバの著作権は、Initio Corporationにあります。
- MS-DOS、Windows、Windows NT は米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
- “REX”は株式会社リコーが商標権を所有していますが、弊社は使用許諾契約により、本商標の使用を認められています。
- 本製品および本製品添付のマニュアルに記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本製品のハードウェアおよびソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

このユーザーズマニュアルには、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止し、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項が示されています。表記と記号の意味を理解してからお読みください。

本文中の記号説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いを行うと人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いを行うと人が負傷を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。
ご注意	この表示は、本製品を取り扱う上での注意事項を示しています。



 分解禁止：発火のおそれがあります

ボードの分解や改造等は絶対に行わないでください。また、無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものをのせることは行わないでください。



パソコン本体の電源をオンのまま、REX-PCI33の抜き差しをしないでください。



煙が出たり、変な臭いがする場合は、だだちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブル等もコンセントから抜いてください。
必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。



ボードが濡れた場合、ショートによる火災や感電のおそれがあるため使用しないでください。
必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。



ボードは電子機器ですので静電気を与えないようにしてください。
故障するおそれがあります。



ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズ
を与え誤動作することがあります。



モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがあります
ので、必ず離してご使用ください。



本製品（ソフトウェアを含む）は、日本国内仕様です。日本国外で使用
された場合の責任は負いかねます。



本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送設備など人命に
関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使
用は意図されておりません。これらの設備、機器制御システムに本製品
を使用し、本製品の故障により人身事故、火災事故などが発生しても弊
社ではいかなる責任も負いかねます。



保管に関するご注意：

本製品を保管する場合、故障の原因となりますので次のような場所での
保管は避けてください。

- ◆ 直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所、暖房器具等の
近く、温度差の激しい場所
- ◆ チリやほこり、湿気の多い場所
- ◆ 振動や衝撃の加わる場所

製品の特徴

- PCI ローカルバスインターフェース上で動作する Ultra Wide SCSI ボードです。
- パソコンとの転送は 32bit データバス、33MHz バスクロック、バスマスタ転送方式により最高 132MB/sec の転送を行います。
- Ultra Wide SCSI 機器との転送は同期転送で最高 40MB/sec (理論値) の転送を行います。
- 将来の BIOS アップグレードに備え、書き換え可能な Flash メモリを採用しています。
- SCSI 機器接続状態を自動検出、ターミネーション自動設定回路を採用しています。
- 高速化の技術でマルチタスク、タグキュー、マルチスレッド、スキップギャザー、ディスクコネクタ/リコネクタをサポートしています。
- SCSI-BIOS メニューより、ハードディスク、MO の物理フォーマットをサポートしています。
- Narrow (50 ピンコネクタ) の外付け機器接続用の SCSI ケーブルを標準で添付しています。

対応パソコンと対応 OS(オペレーティングシステム)

本製品は、PCIローカルバス2.0仕様以降のPCIスロットを装備しているPC/AT互換機、NEC PC98-NXパソコン（ 1）に対応しています。

また、以下のオペレーティングシステムに対応しています。

オペレーティングシステム	DOS/Vパソコン	NEC PC98-NX
Windows 95	対応	対応
Windows 98	対応	対応
Windows NT4.0	対応	対応
DOS/Windows 3.1	対応	未対応 2

1 : NEC PC-9821シリーズには、対応していません。

2 : PC98-NX本体がDOS/Windows 3.1をサポートしていません。

ただし、Windows 98/95起動ディスクでの使用は可能です。

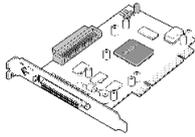
一部の機種では制限があったり正常に動作しない場合もありますので、メーカー名および機種型番の詳細については弊社ホームページ(<http://www.rexpccard.co.jp>)でご確認頂くか、弊社サポートセンターに直接ご確認ください。

梱包品について

REX-PCI33には以下のものが梱包されています。

不足の場合には、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

PCI ボード



外付け用 Wide-Narrow 変換 (68pin-50pin)

SCSI ケーブル(注 1)



Setup Disk 2 枚



Windows 98/95 用 1 枚
Windows NT4.0 用 1 枚

ユーザズマニュアル



保証書(注 2)



(注1) SCSI ケーブルの長さは約 70cm です。

(注2) 保証書は必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。

(注3) 内蔵用 SCSI ケーブル (68 ピン、50 ピン)、外付け用 WideSCSI ケーブルおよび外付け用ターミネータは添付しておりません。
必要に応じてお買い求めください。

お問い合わせをする前に

Windows 98/95 環境でお問い合わせをする前に、次の内容をご確認ください。

ほとんどの場合、弊社よりご質問いたしますので回答をご用意ください。

1. REX-PCI33 を装着するとパソコン起動時に、SCSI-BIOS の画面が表示されましたか？
詳細記載ページ(P21)を参照ください。

YES NO

2. 新しいハードウェアを見つけましたと表示されましたか？
詳細記載ページ(P29) (P31)を参照ください。

YES NO

3. ドライバインストールの確認で、RATOC REX-PCI33 SCSI PCI Controller と表示されましたか？
詳細記載ページ(P33)を参照ください。

YES NO

4. 2. で YES の場合、このデバイスは正常に動作していますと表示されていますか？
詳細記載ページ(P34)を参照ください。

YES NO

5. 3. で YES の場合、SCSI 機器確認ユーティリティ (P41) で接続してある SCSI 機器は表示されていますか？
詳細記載ページ(P41)を参照ください。

YES NO

Windows NT4.0 環境でお問い合わせをする前に、次の内容をご確認ください。

ほとんどの場合、弊社よりご質問いたしますので回答をご用意ください。

1. ドライバインストールの確認で、RATOC REX-PCI33 NT SCSI HOST Adapter と表示されましたか？

YES NO

2. SCSI アダプタの RATOC REX-PCI33 NT SCSI HOST Adapter のもとに接続してある SCSI 機器が表示されていますか？

YES NO

製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。

ラトックシステム株式会社
サポートセンター
TEL 0120-033555(SCSI専用 Free Dial)
月～金 10:00～17:00 土曜、日曜および祝日を除く
FAXでの受付は24時間行っております。
FAX 06-6633-3553
〒556-0012
大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル

インターネットのホームページでも受け付けております。

ラトックシステムのホームページ
<http://www.rexpccard.co.jp>

また、NIFTY Serve の以下のフォーラムでも受け付けております。

PC Vendor Station E
(SPCVE)
電子会議室 8 番「ユーザサポート」

お問い合わせの際には、最後のページの「質問用紙」に必要事項を記入の上、上記 FAX 番号までお送りください。折り返し弊社より電話または FAX にて回答いたします。

また、インターネット、NIFTY Serve でのご質問時には、Setup Disk 内の quest.txt の書式をご利用ください。

ご質問に対する回答は上記営業時間内の処理となりますのでご了承ください。

また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

1. REX-PCI33 について

REX-PCI33はUltra Wide SCSI PCI ホストアダプタボードです。パソコンにUltra Wide SCSI (68pin)のハードディスクや、Ultra SCSI(50pin)の内蔵ハードディスクを接続するために使用します。

また、本製品添付の68pin 50pin変換ケーブルを使用してMOドライブ、CDRドライブ、スキャナ等も接続して使用することが可能です。

添付のソフトウェアについて

本製品に添付のフロッピーディスク (SetupDisk 1, SetupDisk 2)には次のソフトウェアが含まれます。

[Windows 98/95 用]

- Windows 98/95 用 SCSI ミニポートドライバ(REXPCI33.MPD)
 - Windows 98/95 用インストーラ(SETUP.EXE)
 - ハードディスク / 光磁気ディスク用フォーマッタ(REXFMT95.EXE) 1
 - 接続 SCSI 機器確認ユーティリティ(WINSSC.EXE) 1
 - SCSI コンフィギュレーションユーティリティ(SCUINICW.EXE) 1
- 1 : ユーティリティのインストール(P36)を行わないと実行できません。

[Windows NT4.0 用]

- Windows NT4.0 用 SCSI ミニポートドライバ(REXPCI33.SYS)
 - SCSI コンフィギュレーションユーティリティ(SCUINICN.EXE) 2
- 2 : ユーティリティのインストール(P61)を行わないと実行できません。

[DOS/Windows 3.1 用]

- DOS/V 用 ASPI マネージャ(ASP850.SYS)
- DOS/Windows 3.1 用 DISK ドライバ(REXDISK.SYS, REXDISKW.SYS)
- DOS/Windows 3.1 用 CD-ROM ドライバ(REXCD.SYS)
- Windows 3.1 用 16bit WinASPI (WINASPI.DLL, VASPIREX.386)
- DOS 用 SCSI コンフィギュレーションユーティリティ (SCUINICD.EXE)

フロッピーディスク内のディレクトリ階層構造やファイル名については同ディスク内の README ファイルを、テキストエディタ等を使用して確認してください。

READMEファイルにはマニュアルに記載できなかった最新情報がありますので必ずご覧ください。

第 1 章 REX-PCI33 について

制限

- REXFMT95、REXFMT ではブートディスクの作成はできません。
FDISK、FORMAT コマンドをお使いください。
- Windows NT での使用時、SCSI 機器によっては WNASPI32.DLL が必要となる場合があります。別途お買い求めください。
- クロックアップしたパソコンでは誤動作する場合があります。標準の設定でご使用ください。
- パソコンをスリープにする時、SCSI 機器の電源を切ることはできません。

空きの IRQ を確認する

REX-PCI33 を取り付ける前に、使用しているパソコンのリソース、特に IRQ について最低 1 つ以上空きのある状態かどうかを確認してください。

この確認を行わずに REX-PCI30 を装着した場合、パソコンが新しいハードウェアを見つけることができず、インストールを行えなくなります。

ただし、IRQ シェアリングモードで使用可能な PCI スロットおよび PCI ボードが装着されている場合は、必ずしも空きの IRQ を確保する必要はありません。

Windows 98/95 の場合

1. Windows 98/95 の [コントロールパネル] [システム] を開いて [デバイスマネージャ] のタブを選択し、コンピュータのところをダブルクリックします。
2. IRQ の使用されている一覧が表示されます。



3. IRQ 00 ~ 15 まで使用可能です。空いている番号があるか確認してください。
この例では、03, 04, 09 が空いています。

Windows NT の場合

1. Windows NT の [スタート] [プログラム] [管理ツール] [Windows NT 診断プログラム] を開いて [リソース] のタグを選択します。
2. IRQ の使用されている一覧が表示されます。



3. IRQ 00 ~ 15 まで使用可能です。空いている番号があるか確認してください。
 上の画面では、00, 05, 07, 08, 09, 10, 11, 13 が抜けているので空いている可能性があります。一般的に IRQ00 (システムタイマ)、IRQ02 (割り込みコントローラ)、IRQ07 (プリンタポート)、IRQ08 (リアルタイムクロック)、IRQ13 (数値演算プロセッサ) が使用します。したがって、この例では IRQ5, IRQ9 ~ IRQ11 が空いていることになります。

DOS/Windows 3.1 システムの場合

プラグ・アンド・プレイ ドライバ(DWCFGMG.SYS)を CONFIG.SYS に登録してある場合、プラグ・アンド・プレイユーティリティを起動して確認してください。

詳しい使用方法については、パソコンに添付のマニュアルを参照してください。

2. SCSI ボードの取り付け

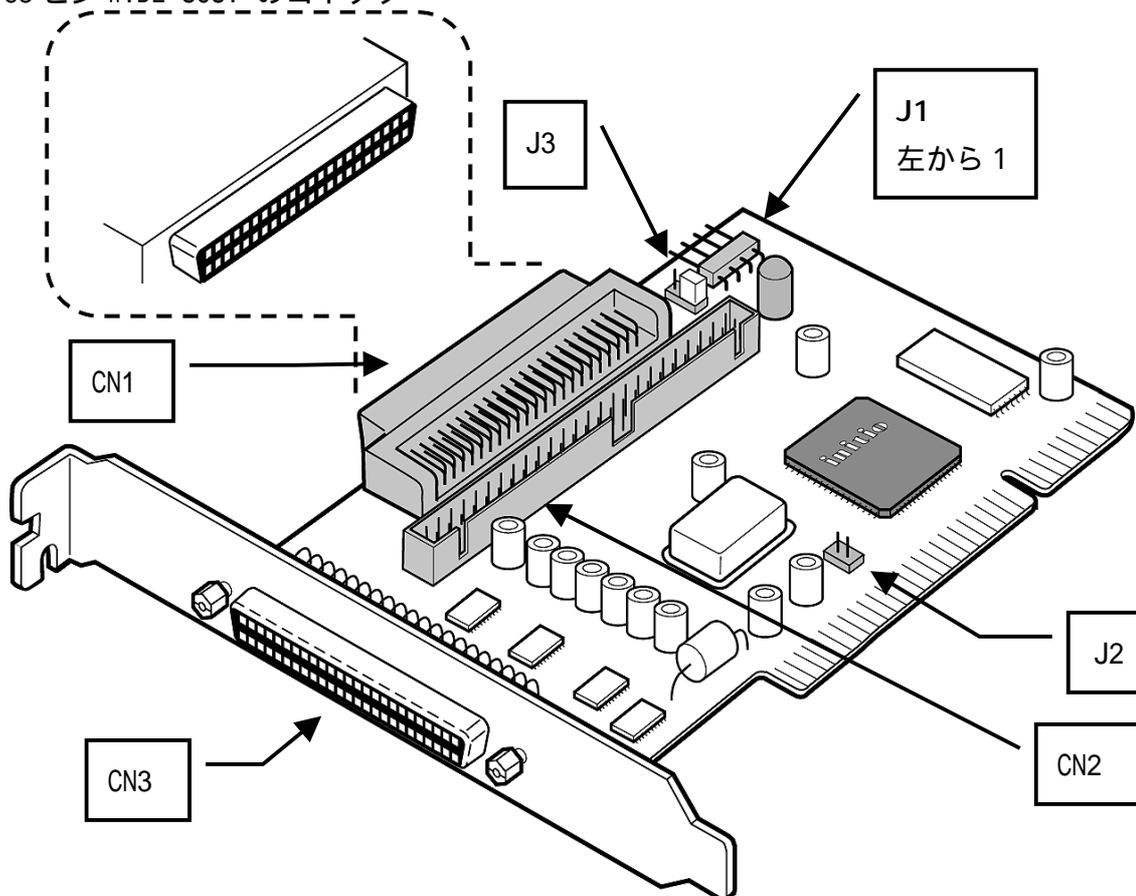
SCSIボードにSCSI機器を接続して使用するには次の取り付け作業が必要です。

作業の前に、現在使用しているハードディスクの内容を、フロッピーディスク等にバックアップしておいてください。

1. SCSI ボードに存在する3つのコネクタを確認します。

コネクタ名	用途
CN1	内蔵機器接続用 68 ピンコネクタ CN3 と形状は同じです。
CN2	内蔵機器接続用 50 ピンフラットコネクタ
CN3	外付機器接続用 68 ピンコネクタ
J1	SCSI Bus ビジー 点燈用信号コネクタ (2 口の場合 3 と 4) ピン 1 と 4 - 電源 ピン 2 と 3 - シグナル(Active Low)
J2	常にオープンにしておいてください。
J3	SCSI-BIOS 有効 / 無効設定用

68 ピン WIDE SCSI のコネクタ



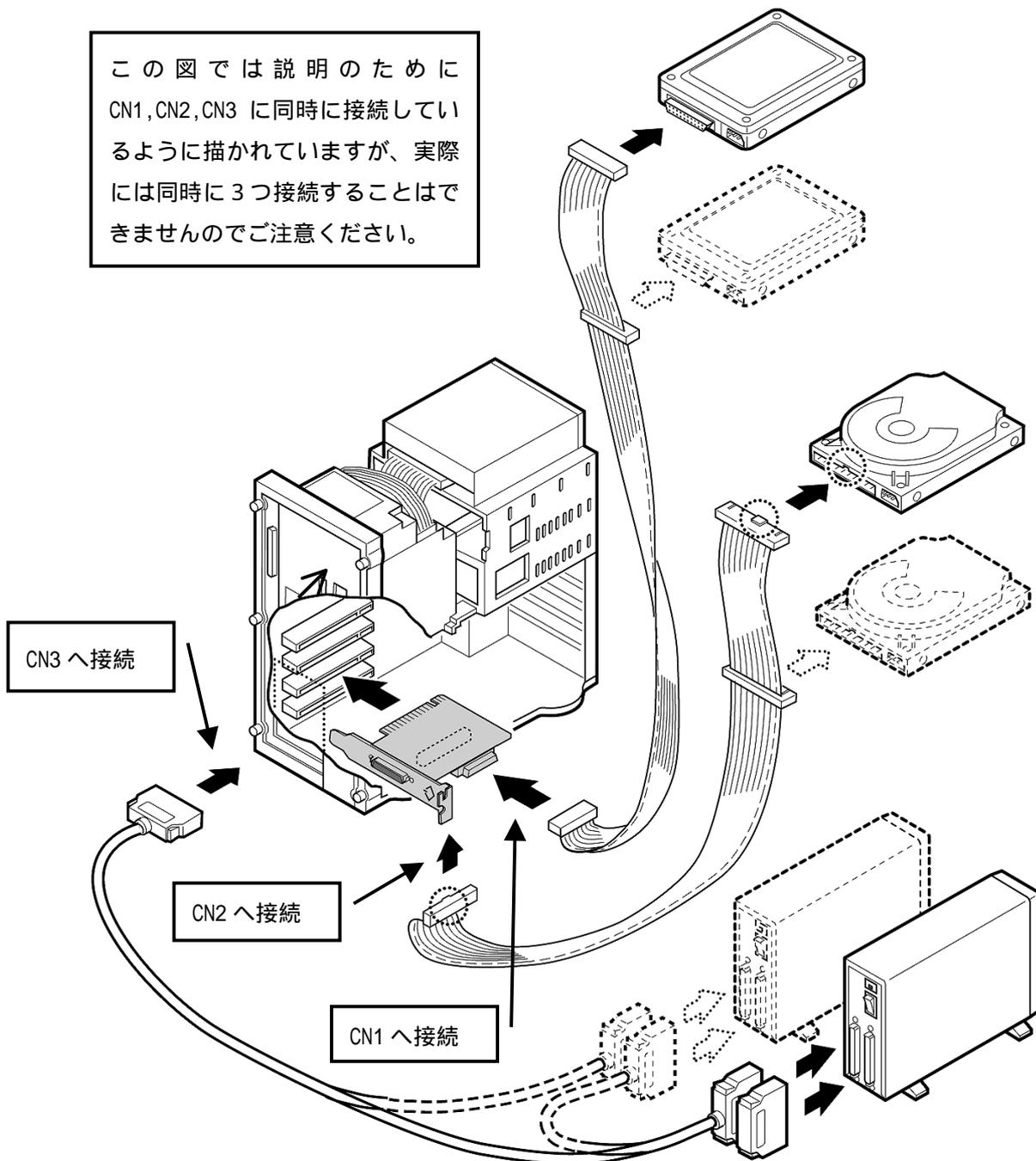
2. パソコンの電源を OFF にします。電源ケーブルを外します。

パソコンのふたを開いてください。

また、あらかじめ静電気を放電します。

パソコン本体、および SCSI ボードの裸金属部に手を触れてください。

第2章 SCSI ボードの取り付け



3 . PCI Bus スロットを確認し図のようにセットします。この例では IDE HD は接続されていません。SCSI 環境の接続レイアウトを示しています。

外部コネクタがシステムユニットの背面に面するように設置し、PCI Bus スロットに合うように挿入してください。金色の接触部が白いソケットに完全に入り見えなくなるまで挿入します。相当の力が必要な場合があります。

挿入されたら取り付けパネルのネジを締めボードを固定します。ネジは不要な場合があります。

図中の 50pin 内部接続用ケーブル、68pin 内部接続用ケーブル、外部ターミネータは添付していません。68pin 50pin 変換外付け用ケーブルは添付してあります。

SCSI コネクタ 3 系統ありますが、同時に使用できるのは 2 系統です。

- 4 . 外部接続 SCSI 機器と内部接続 SCSI 機器をそれぞれのマニュアルに沿ってインストールします。

内蔵 SCSI 機器がない場合は、CN1, CN2 へは何も接続する必要はありません。
SCSI 機器は 50pin 接続総計 7 つまでと外部または内部 68pin 接続の総計 8 つまで接続が可能です。
接続方法例とターミネータの設定方法を説明します。
ターミネータは必ず SCSI Bus ライン上の両端に設定しなければなりません。
- 5 . 内蔵 SCSI の最終端の機器は、ターミネータを有効にする必要があります。

外付け SCSI の最終端の機器にも、ターミネータが必要です。
REX-PCI33 のボード上でのターミネータは、通常 BIOS 設定で Automatic の設定で接続状態を検出して自動的に動作します。
たとえば、内蔵 50pin と内蔵 68pin の SCSI 機器がある場合や、外部 68pin と内蔵 50pin の SCSI 機器がある場合、SCSI ボードの low ターミネータは OFF で、high ターミネータは ON として動作します。
ただし、外部 68pin に変換ケーブルを使用して NarrowSCSI 機器を接続し内蔵 68pin へ WideSCSI 機器を接続する場合に限り、SCSI-BIOS の設定で High ON/Low OFF に設定する必要があります。
- 6 . SCSI ID の設定例を示します。

SCSI ID は一つの SCSI Bus ライン上に同じ番号があってはなりません。50pin 内蔵機器は 0~4 を 68pin 外部機器は 5~6 を 68pin 内部機器は 8~15 を使うと決めておくといでしょう。50pin 内蔵機器は 0~2 で 68pin 外部機器は 3~6 を使うと決めてもかまいません。守らなければならないことは、同じ番号があってはならないことです。
- 7 . 内部接続用 SCSI ケーブルは別途用意してください。ボードの CN2 コネクタに 50 ピンフラットケーブルを差し込みます。

コネクタにはピン 1 を示す マークがついています。50 ピンフラットケーブル上の端に 1 本のみある色付きストライプの線が マークに合うように差し込みます。
CN1 コネクタには内蔵用 68 ピンケーブルを差し込みます。
コネクタのピンは折れないように注意してまっすぐに装着してください。
- 8 . 外部接続用 Wide SCSI ケーブルは CN3 コネクタを使用して接続します。

コネクタのピンは折れないように注意してまっすぐに装着してください。

第2章 SCSI ボードの取り付け

9. 必須事項ではありませんが内蔵 SCSI 機器にアクセスしているときのアクセスランプを点灯することができるパソコンがあります。
パソコンの取扱説明書に書かれているハードディスク LED Cable を J1 のコネクタに差し込みます。2 口ケーブルの場合、3 番 4 番に差し込みます。
詳しくはお手持ちのパソコンの取り扱い説明書をお読みください。
10. パソコンのカバーをもとに戻します。これで REX-PCI33 のハードウェアの取り付け完了です。
次にパソコンの PCI バスの確認・設定を行います。

接続できる台数とケーブルの長さ

SCSI デジチェーン接続して使用する場合、REX-PCI33 に添付してあるケーブルのインピーダンス特性と一致したものを使用する必要があります。
インピーダンスが、90 タイプの SCSI ケーブルをご使用ください。
SCSI 機器は理論上 15 台まで接続可能です。ただし、Wide に対応していない機器は 7 台までです。
SCSI 機器が、Ultra Wide および Ultra SCSI 対応か FAST SCSI 対応かによって接続できる SCSI 機器の台数と接続に使用する SCSI インターフェイスケーブルの長さの合計が異なります。
以下に表記してある長さは、SCSI 機器の内部配線および内蔵ケーブルを含みます。

UltraWide および Ultra SCSI 機器が 1 台でもある場合

接続台数	ケーブルの長さの合計
1 ~ 3 台	3 メートル以下
4 ~ 15 台	1.5 メートル以下

すべて FAST SCSI 機器の場合

接続台数	ケーブルの長さの合計
1 ~ 7 台	3 メートル以下

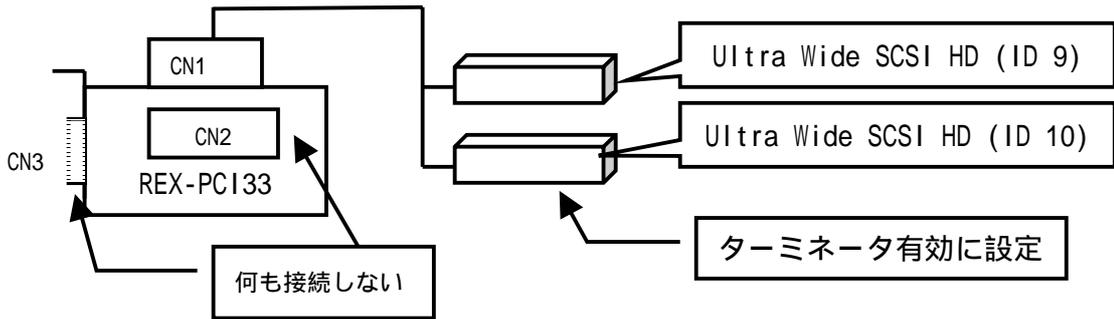
上記の記載項目はあくまで SCSI 規約に基づくものです。実際には、接続する SCSI 機器や SCSI ケーブルの性能に影響されます。
また、SCSI 変換コネクタを使用すると SCSI バスの状態が悪くなる場合があるため、SCSI 変換コネクタでの接続はお勧めしません。

ケーブル接続例

ここでは、色々な組み合わせでの機器接続の例と SCSI ボードのターミネータ設定について説明します。

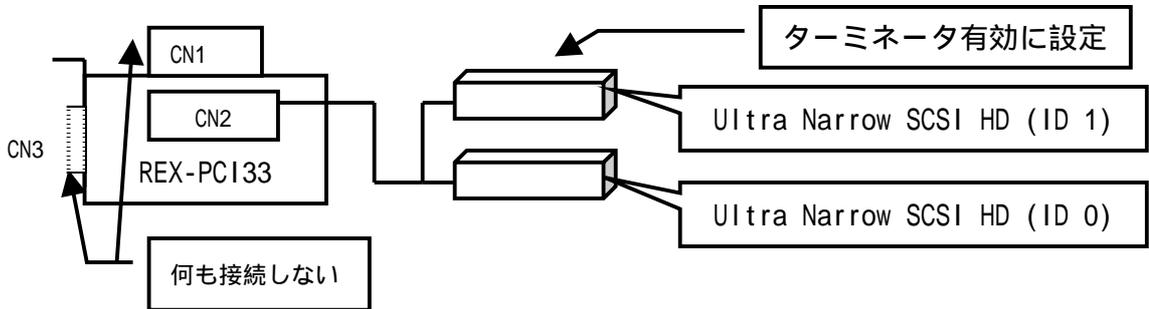
内蔵 Ultra Wide SCSI 機器のみの場合

SCSI ボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



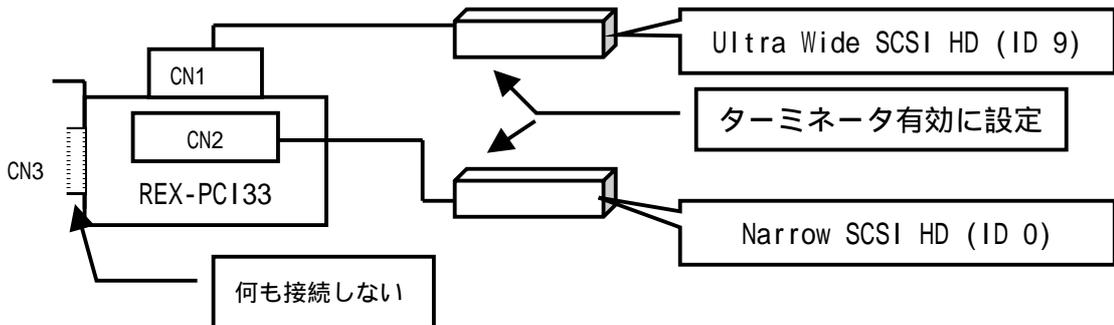
内蔵 Narrow SCSI 機器のみの場合

SCSI ボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



内蔵 Ultra Wide SCSI 機器と内蔵 Narrow SCSI 機器の場合

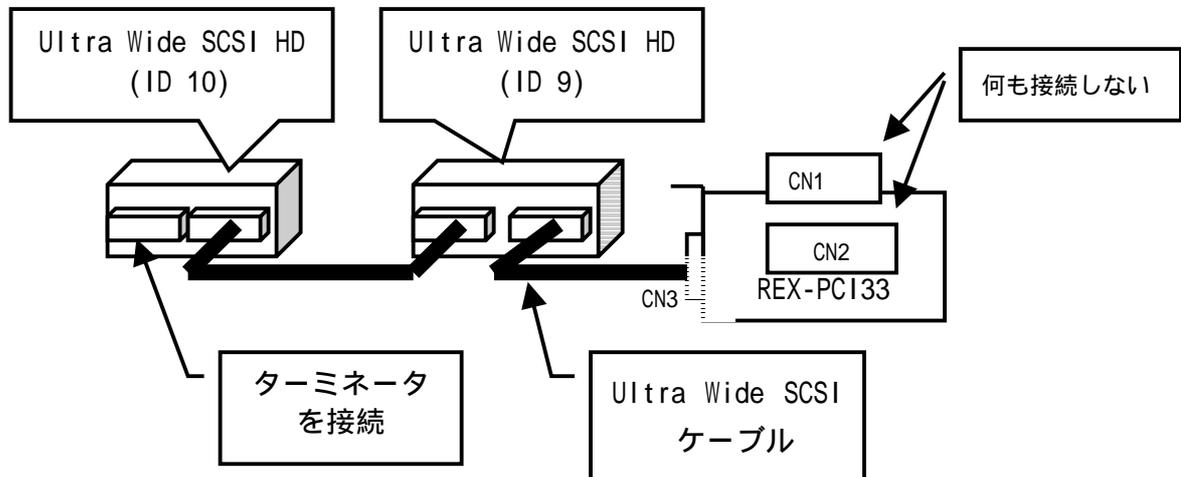
SCSI ボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



第2章 SCSIボードの取り付け

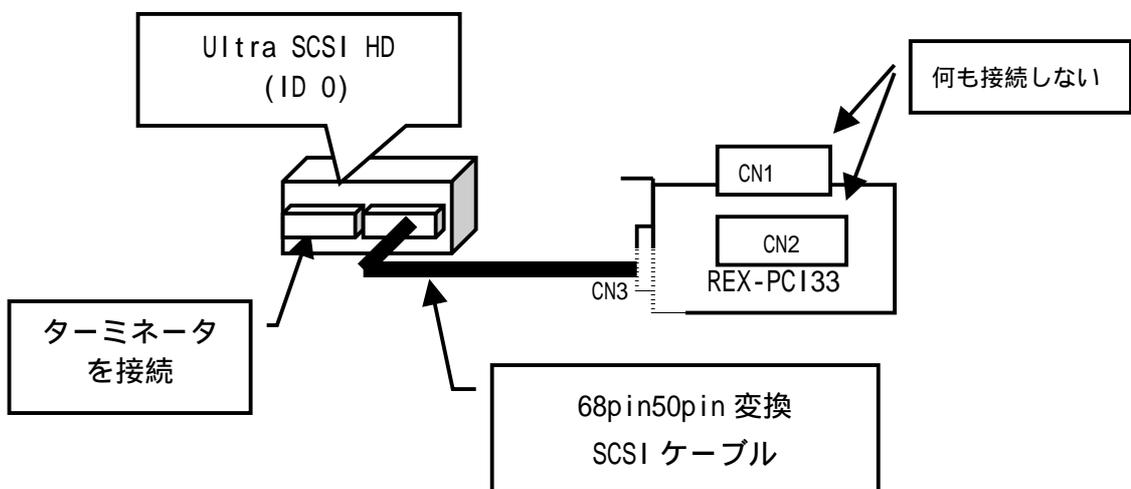
外部 Ultra Wide SCSI 機器のみの場合

SCSIボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



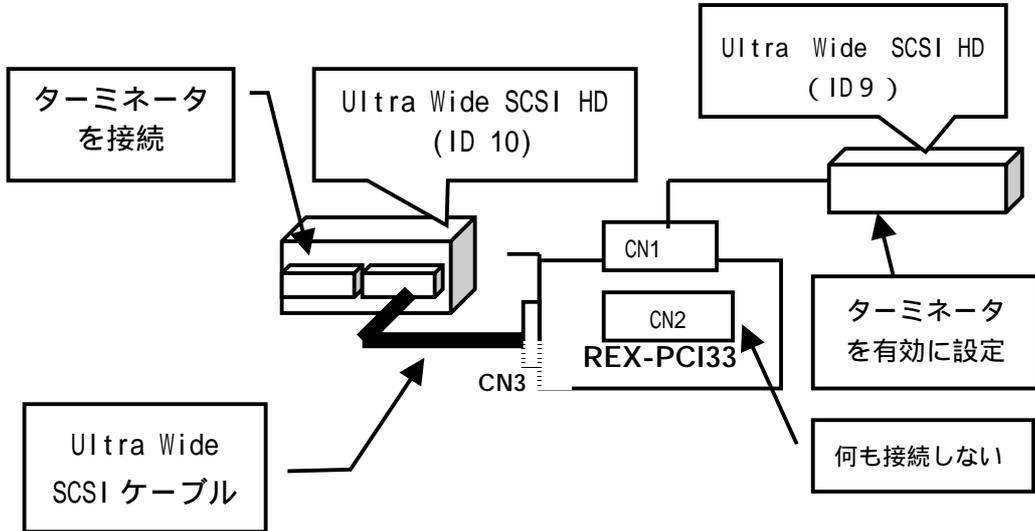
外部 Narrow SCSI 機器のみの場合

SCSIボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



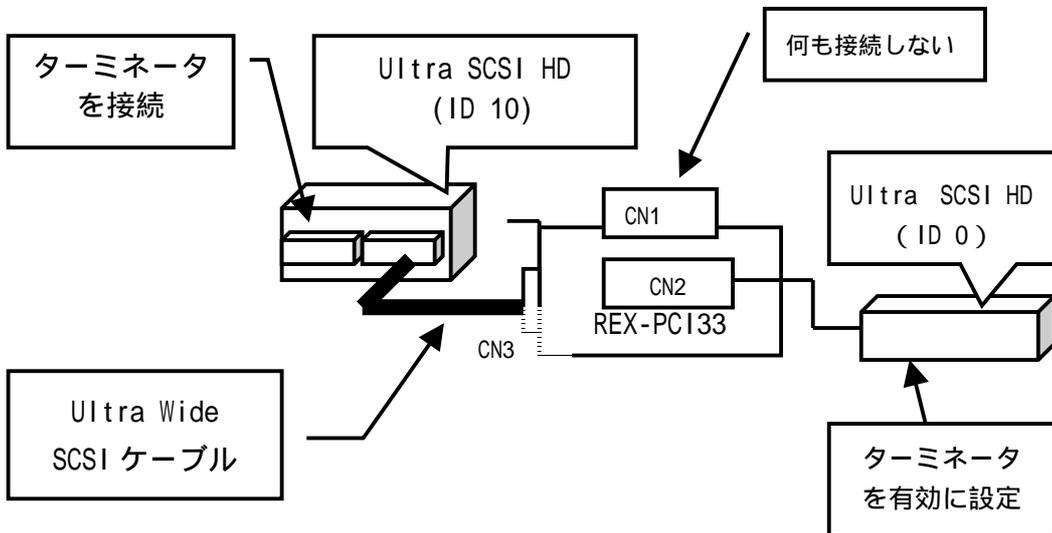
外部 Ultra Wide SCSI 機器と内蔵 Ultra Wide SCSI 機器を接続する場合

SCSI ボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



外部 Ultra Wide SCSI 機器と内蔵 Narrow SCSI 機器を接続する場合

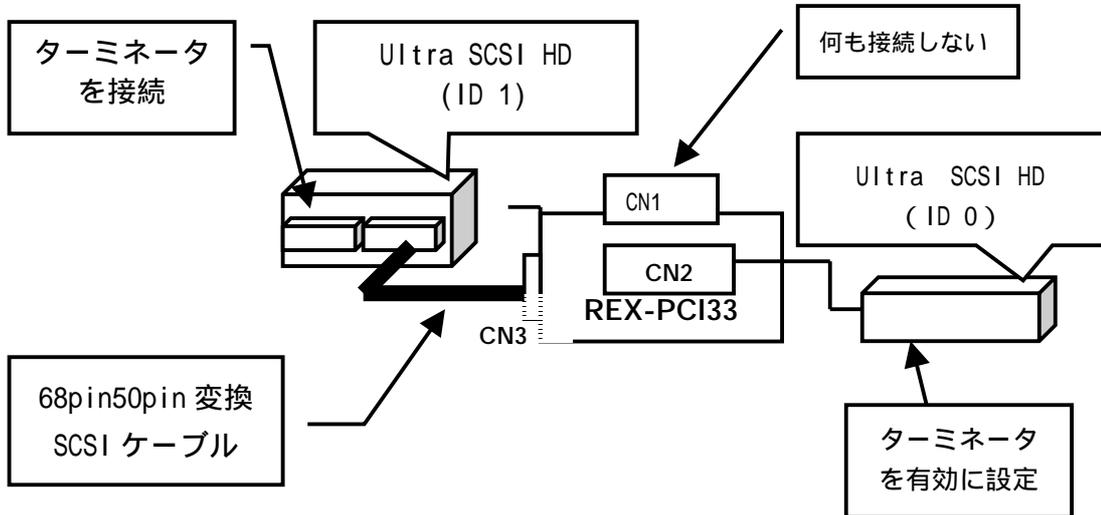
SCSI ボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



第2章 SCSI ボードの取り付け

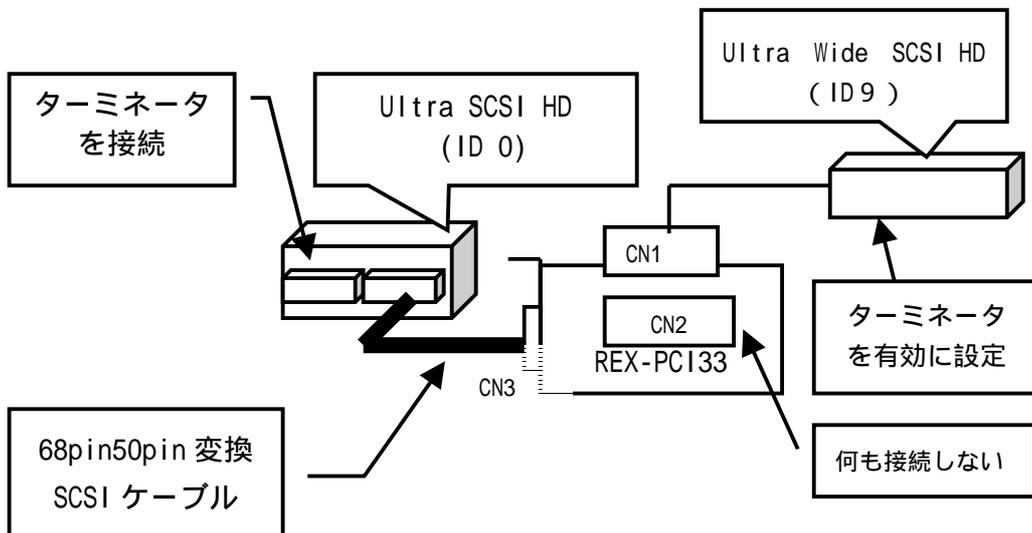
外部 Narrow SCSI 機器と内蔵 Ultra Narrow SCSI 機器を接続する場合

SCSI ボードのターミネータ設定…………… Automatic に設定



外部 Narrow SCSI 機器と内蔵 Ultra Wide SCSI 機器を接続する場合

SCSI ボードのターミネータ設定…………… High ON / Low OFF に設定



3. パソコンのPCIバスの確認・設定

REX-PCI33 を取り付けたパソコンのPCIバスの確認および設定を行います。
これらの作業は、インストールのトラブルを避けるためにも行ってください。

PCIバスの確認

パソコンのBIOSメニューから以下の項目を探してみます。
これらの項目は、パソコンによって表記が異なります。パソコンのマニュアルを参照してください。

PCIスロットの有効/無効

該当するスロットを有効にします。

ISAスロットのIRQの設定

“USED”を選択します。

PCIスロットの使用するIRQの範囲

1つ以上確保してください。

接続しているSCSI機器の電源をONにした状態で、システム立ち上がり時、以下の画面が表示されれば、PCI-BIOSレベルでは正常に動作しています。

SCSI-BIOS スタート画面

```
RATOC REX-PCI33 BIOS Ver XXX
Copyright Initio Corporation / RATOC Systems, Inc.
!!! Press < Ctrl > <l> for Smart SCSI Setup Utility !!!
!!! Press < Ctrl > <B> for Smart SCSI Setup Utility !!!
!!! Press < ESC > to continue. !!!

SCSI ID 0A SEAGATE ST34502LW - Drive X: (8xh)
SCSI ID 0B SEAGATE ST39102LW - Drive X: (8xh)

SCSI BIOS install 1
```

SCSI-BIOS スタート画面が表示されない場合は、「SCSIボードの取り付け」を再度確認してください。

1 ブート可能ディスクが接続されていない場合、表示されません。SCSI-BIOSは常駐されません。



4. SCSI コンフィギュレーションの設定

この章では、REX-PCI33 に対する SCSI 環境の設定を行う方法を説明します。
システム立ち上がり時、SCSI-BIOS のスタート画面表示中に<Ctrl + I>で表示させます。
通常、設定の変更は必要なく初期値で最高のパフォーマンスで使用できますが、以下の SCSI デバイスを接続している場合は、設定の変更をする必要があります。

- ・ FUJITSU M2512A および M2513A の MO ドライブ
(転送速度を 10MB/S に設定が必要)
- ・ 一部の Scanner
(転送速度を非同期に設定が必要)

また、システムの異なる環境で使用していたハードディスク等を新たに接続する場合、Disk Utility にて Format Disk (物理フォーマット) を実行することをお勧めします。
メニュー構成を示します。

SCSI-BIOS メニュー

Main Menu

```
RATOC REX-PCI33 SmartSCSI™ Setup Utility Ver XXX (C)1994-xx
  PCI Bus : 00   Device : 13H   Port : FC00H   IRQ : 10

Scan Bus  Device Setup  Adapter Setup  BIOS Setup  Disk Utility
```

キー操作方法

ESC : 終了します。 Exit Setup ? を表示されます。終了する場合、Yes を選択します。

第 4 章 SCSI コンフィギュレーションの設定

Scan Bus SCSI 機器が正しく接続されているか、確認できます。

```
                Press any Key to exit
ID:0  no device
ID:1  SEAGATE ST39102LW           0004
ID:2  FIJITSU M2513A             1500
ID:   省略
ID:7  RATOX REX-PCI33 H/A
ID:8  no device
ID:9  SEAGATE ST34502LW           0004
ID:   省略 (以下 ID 15 まで続く)
```

確認したら何かキーを押してください。

接続した SCSI 機器が表示されない場合、以下の項目（電源 - 接続 - ターミネータ）を確認して、もう一度 Scan Bus を選択します。

電源：SCSI 機器の電源が入っていない。

接続：SCSI 機器へのケーブルが正しく接続されていない。

機器の設定：SCSI ID 番号が他の機器または、REX-PCI33 と重なっている。

（ REX-PCI33 は、出荷時の SCSI ID 番号は 7 番に設定されています。 ）

ターミネータ：SCSI 機器側のターミネータが取り付けられていない。

Device Setup

```
SCSI Device ID      #0  #1  #2  #3  #4  #5  #6  #7
Asynchronous Transfer  no
Max Synchronous Transfer40
DOS.Space > 1GB      Yes           省略
Spin up Disk Drive   No
Enable Disconnect    Yes
Enable Wide Negotiation Yes

SCSI Device ID      #8  #9  #10 #11 #12 #13 #14 #15
Asynchronous Transfer  no
Max Synchronous Transfer40
DOS.Space > 1GB      Yes           省略
Spin up Disk Drive   No
Enable Disconnect    Yes
Enable Wide Negotiation Yes
```

Asynchronous Transfer

非同期の転送に設定する場合、Yes にします。(初期値 No)

Max Synchronous Transfer (初期値 40)

同期時の最大転送速度を 40.0, 26.6, 20.0, 16.0, 13.2, 11.4, 10.0 で設定します。

DOS.Space > 1GB

Yes : 1GB ~ 8GB までのハードディスクに対して 255 ヘッド、トラックあたり 63 セクタのパラメタでアクセス。途中で設定を変更するとデータは破壊されます。(初期値)

No : 1GB 以下のハードディスクに対して 64 ヘッド、トラックあたり 32 セクタのパラメタでアクセス。途中で設定を変更するとデータは破壊されます。

Spin up Disk Drive

SCSI ハードディスクの完全な始動をパソコン立ち上がり時に行うかを指定します。

No : 始動を行いません。(初期値)

Yes : 始動を行います。

Enable Disconnect

切断を行い、他の SCSI デバイスへのサービスを行うかどうかを選択します。

Yes : ディスコネクト/リコネクトを行います。(初期値)

No : ディスコネクト/リコネクトを行いません。

Enable Wide Negotiation

Yes : 16bit バスの接続を有効にします。接続されている機器が 8bit バスの場合自動的に Wide ネゴシエーションを行いません。(初期値)

No : 8bit バスの SCSI 機器が接続されていることを設定します。

キー操作方法

ESC : 終了 変更がある場合 Save Change ? の問い合わせがあります。
設定値を保存しない場合、NO を選択します。

カーソルキー : 項目の移動を行います。

+ : 値 変更。

F8 : 出荷時の初期値設定。 Load Defaults ? の問い合わせがあります。

第 4 章 SCSI コンフィギュレーションの設定

Adapter Setup

Host Adapter SCSI Bus ID	7
SCSI Terminators	Automatic
SCSI Parity Check ON	Yes
Reset SCSI Bus at Power-up	Yes
SCSI Reset Recovering Time	6

Host Adapter SCSI ID

ホストアダプタの NO を変更する場合、指定します。0-15 （初期値 7）

WideSCSI に対応していない機器を接続する場合は、0~7 の範囲で設定してください。

SCSI Terminators

Automatic : SCSI Board のターミネータ設定は、自動設定になっています。（初期値）

High ON / Low ON : ターミネータ有効

High OFF / Low OFF : ターミネータ無効

High ON / Low OFF : High ターミネータ有効、Low ターミネータ無効

内蔵 68 ピンコネクタに Wide 機器を接続して、外部コネクタに 68 ピンから 50 ピン変換ケーブルを使用して 50 ピンコネクタの SCSI 機器に接続する場合に限り、High ON / Low OFF の設定にする必要があります。

SCSI Parity Check ON

SCSI 機器のパリティチェックの有効 / 無効を選択します。

Yes : パリティチェックする。（初期値）

No : パリティチェックしない。

Reset SCSI Bus at Power-up

システム起動時の SCSI 機器へのリセット発行の有効 / 無効を選択します。

Yes : 接続機器へリセットを発行する。（初期値）

No : 接続機器へリセットを発行しない。

SCSI Reset Recovering Time

リセット後に次のコマンドをすぐに受け付けられないような SCSI 機器を接続している場合に、SCSI 機器へのリセット発行後、次の SCSI コマンドを発行するまでのウェイト時間を秒数で指定します。1-20 （初期値 6）

キー操作方法

ESC : 終了 変更がある場合 Save Change ? の問い合わせがあります。
変更を破棄する場合、NO を選択します。

カーソルキー : 項目の移動を行います。

+ : 値 変更。

F8 : 出荷時の初期値設定。 Load Defaults ? の問い合わせがあります。

BIOS Setup

Enable Host Adapter BIOS	Yes
Boot Device ID	0
BIOS Support For More Than 2 Drive	Yes
BIOS Treat Removable Disk as Fixed Disk	No

Enable Host Adapter BIOS

SCSI-BIOS をメモリに常駐するかどうかを設定します。

Yes : 常駐します。(初期値)

ただし boot UP 可能なデバイスが接続されている場合に限りです。

No : 常駐しません。SCSI-BIOS から SCSI 機器をコントロールしません。

Boot Device ID

SCSI ハードディスクからブートする場合その SCSI ID NO を指定することができます。
(初期値 0)

BIOS Support for Bootable CD-ROM

SCSI-BIOS から SCSI CD-ROM のブート可能な CD-ROM を読み込みブートします。

Yes : 常にブートしようとしています。

No : Ctrl + B を押したときだけブートします。(初期値)

Windows NT4.0 の CD-ROM からのブートはサポートしていません。

BIOS Treat Removable Disk as Fixed Disk

リムーバブルディスクを固定ディスクと同様に扱います。ただしイジェクト時にファイルのオープン中でないことの確認が必要です。

No : 固定ディスクと同様に扱いません。(初期値)

Yes : 固定ディスクと同様に扱います。

キー操作方法

ESC : 終了 変更がある場合 Save Change ? の問い合わせがあります。
保存しない場合、NO を選択します。

カーソルキー : 項目の移動を行います。

+ : 値 変更。

F8 : 出荷時の初期値設定。 Load Defaults ? の問い合わせがあります。

Disk Utility

```
                Select Device ID
ID:0  no device
ID:1  SEAGATE ST39102LW           0004
ID:2  FIJITSU  M2513A           1500
ID:   省略
ID:7  RATOOC  REX-PCI33  H/A
ID:8  no device
ID:9  SEAGATE ST34502LW           0004
ID:   省略 (以下 ID 15 まで続く)
```

ハードディスクおよびリムーバブルディスクを選択できます。
選択後、Verify Disk または Format Disk を選択します。

Verify Disk を選択し実行すると、ハードディスクに不良セクタがあるかどうかの確認ができます。

Format Disk を選択し実行すると、ディスクの物理フォーマットを行います。
ディスクが以前に PC-9821 のシステム、または Macintosh などの DOS/V と異なる場合、
まず Format Disk を行いクリアな状態にしてから使用することをお勧めします。
ディスクの内容は消去されますのでご注意ください。

物理フォーマットの所要時間は、接続した HD、MO 等の性能により大きく異なります。
例のような、SEAGATE ST34502LW の場合、約 10 分かかります。
SEAGATE ST39102LW の場合、約 20 分かかります。
SEAGATE ST34501W の場合、約 90 分かかります。

実際にドライブとして使用するには、各オペレーティングシステム上でフォーマット操作も必要になります。

5. Windows 98/95 インストール済みにて使用する

Windows 98/95 のインストール済みパソコンへ REX-PCI33 を取り付ける場合を説明します。本製品添付の SetupDisk 1 を用意してください。

98

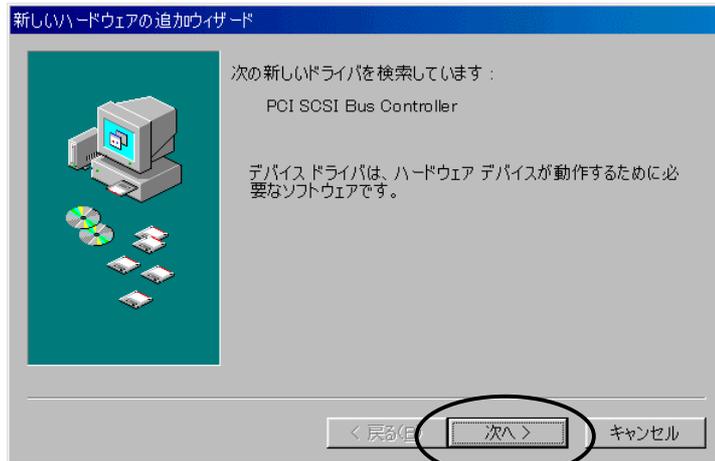
Windows 98 ミニポートドライバのインストール

REX-PCI33 を装着したあと SCSI ハードディスク等の SCSI 機器にアクセスするには Windows 98/95 のミニポートドライバの登録が必要になります。登録は以下の手順で行います。

95

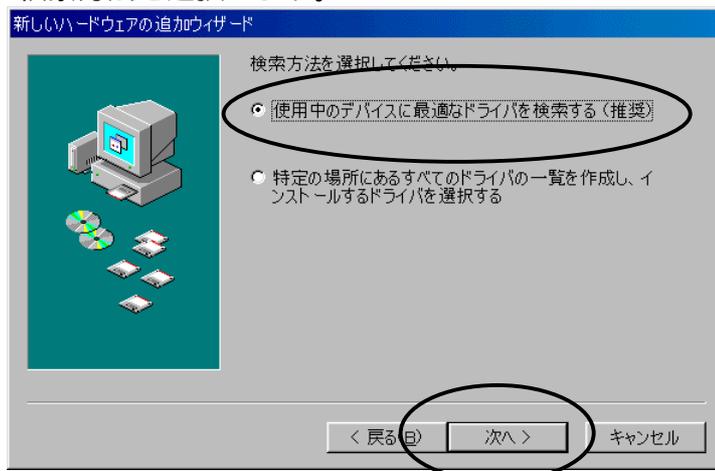
コントロールパネルの“ハードウェア”（ハードウェアウィザード）によるインストールを行っても、ドライバは正しく組み込まれません。

1. 以下のメッセージが表示されます。



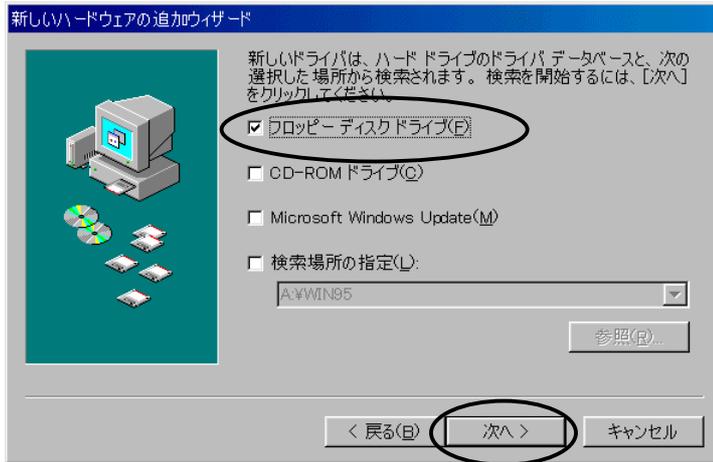
「次へ」を押してインストールを行います。

2. 検索方法を選択します。



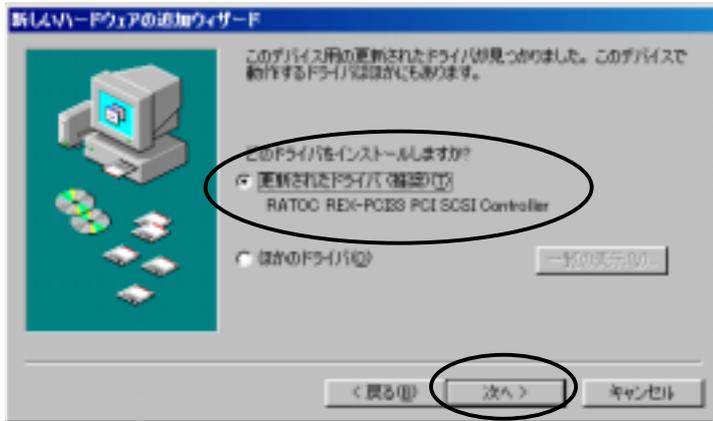
使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）にチェックを入れます。「次へ」を押します。

3. 検索を行う場所を指定します。



フロッピーディスクドライブにチェックを入れ Setup Disk 1 をセットします。「次へ」を押します。

4. フロッピーディスクにある REX-PCI33 用のドライバを検出します。



フロッピーディスクから RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller を検出します。「次へ」を押します。

5. 正しく読み込まれると「準備ができました」のメッセージになります。



ドライバのある場所が A:¥REXPCB3.INF となっていることを確認し「次へ」を選択します。

6. 完了メッセージが表示されます。

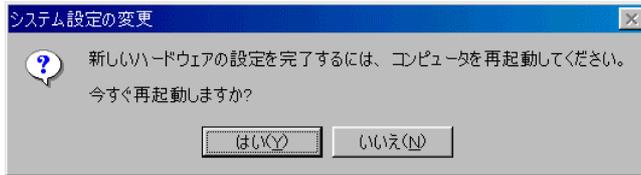


「完了」を選択します。

98

95

7. 再起動画面になります。



Setup Disk1 を抜き、システム再起動します。

以上でインストールは終了です。次にインストールの確認を行います。

Windows 98/95 ミニポートドライバのインストール確認(P33)に進んでください。

98

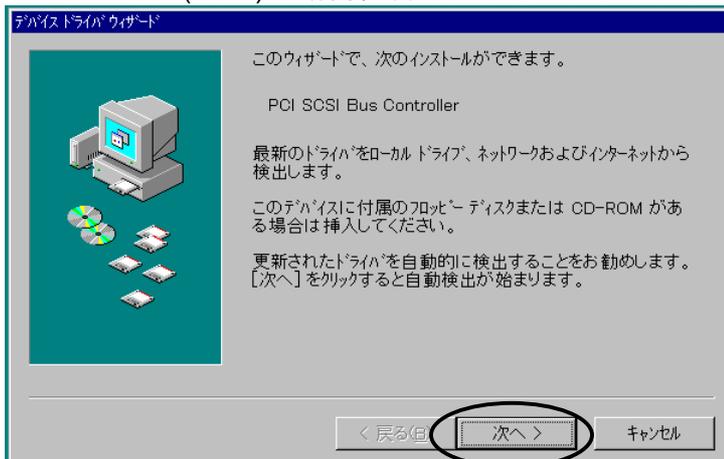
95

Windows 95 ミニポートドライバのインストール

REX-PCI33 を装着したあと SCSI ハードディスク等の SCSI 機器にアクセスするには Windows 98/95 のミニポートドライバの登録が必要になります。登録は以下の手順で行います。

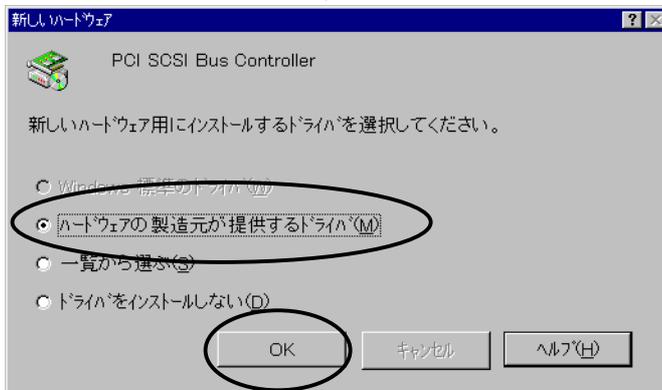
コントロールパネルの“ハードウェア”（ハードウェアウィザード）によるインストールを行っても、ドライバは正しく組み込まれません。

1. Windows 95B(OSR2)の場合、右のメッセージウインドウが表示されます。



添付の Setup Disk1 をセットし、[次へ] を押してください。

2. Windows 95/95a の場合、新しいハードウェア画面が表示されます。



[ハードウェアの製造元が提供するドライバ]を選択し[OK]を選択します。

次にドライバディスクを指定する画面が表示されます。

画面の説明に沿ってドライバをインストールしてください。

以降、Windows 95B(OSR2)の場合で説明します。

3. ドライバ発見の画面が表示されます。

[完了]を押してください。

4. 以前、何かのドライバの組み込みに失敗等があった場合、以下のメッセージが表示されることがあります。



[OK]を選択すると再度インストール画面が表示されます。

5. ドライバのコピー中にコピーするドライバが見つからなく、REXPCI33.MPD が見つかりませんの画面が表示される場合があります。
「ファイルのコピー元」と同じ、フロッピーディスクドライブ名を入力してください。
「ファイルのコピー元」に “A:¥” と入力します。
6. コピーが終わってしばらくすると、システム再起動画面になります。
7. Setup Disk1 を抜いてシステム再起動してください。

以上で Windows 95 ミニポートドライバのインストールは終わりです。

続いてインストールの確認を行います。

98

95

Windows 98/95 ミニポートドライバのインストール確認

ドライバが正しくインストールされているかの確認は以下の手順で行います。

1. Windows 98/95 上から [コントロールパネル] の [システム] を開き、[デバイスマネージャ] を選択します。
2. デバイスマネージャの「SCSI コントローラ」項目左のプラス記号(+)をクリックして、[RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller]が表示されていることを確認します。



3. 登録されていない場合は、次の確認をします。

SCSI-BIOS スタート画面が表示されたか確認してください。

表示されなかった場合、PCI バスの確認(P21)に戻ってください。

[RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller] 項目の先頭のアイコンに「!」「X」「?」表示があるか確認します。

「!」「?」表示がある場合は、ドライバが正しくインストールされていません。

「X」表示がある場合は、ドライバの動作を停止しています。

98

95

4. [RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller]のプロパティウィンドウを表示してドライバが正常に動作されているか確認します。



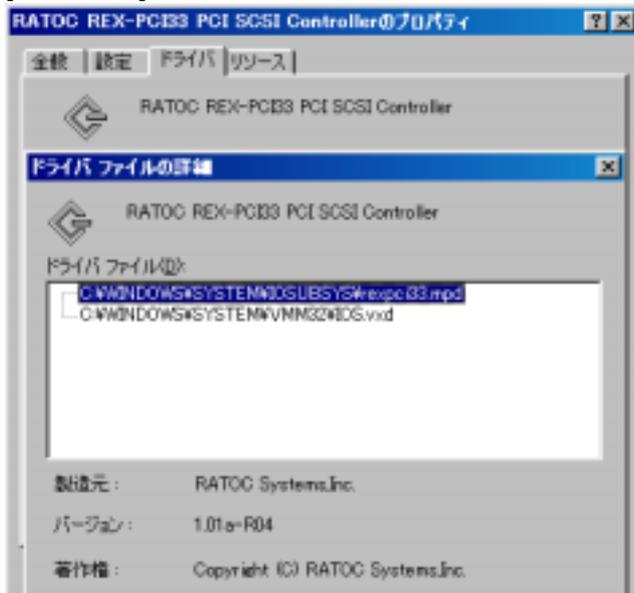
[全般] タグをクリックして [このデバイスは正常に動作しています] が表示されていることを確認します。

5. [設定] タグを押します。



この項目では、設定および確認することはありません。

6. [ドライバ]のタグを押します。



ミニポートドライバの場所とバージョン等を確認できます。

Windows 95 では、「このデバイスには、ドライバファイルが必要でないか、または読み込まれていません。」と表示されますが正常です。問題ありません。

98

95

7. [リソース]のタグを押します。



98

95

IRQ、メモリ、I/O アドレスが確保されており「競合なし」になっていることを確認します。本製品は、プラグアンドプレイ機能により、競合しないように自動的に設定をおこないます。基本設定を変更しても競合する場合、システム資源不足により使用できません。他のボードを取り外してください。もしくは、COM1、COM2、パラレルポートを無効にしてシステム資源を確保してください。

SCSI ユーティリティのインストール

98

フォーマットユーティリティ (REXFMT95.EXE)、SCSI 機器確認 (WINSSC.EXE) のインストールを行います。

1. 添付の Setup Disk1 をフロッピーディスク装置にセットしデスクトップ画面の[マイコンピュータ]からフロッピーディスクのアイコンをダブルクリックします。
2. SCSIUT ディレクトリの SETUP.EXE をダブルクリックして起動します。

95



3. 画面の指示に従ってインストールを進めます。
4. SCSI ユーティリティのインストールが正常に終了すると[スタート]ボタンからのプログラムメニューの中に[REX SCSI ユーティリティ]が追加されています。

フォーマットユーティリティ (REXFMT95.EXE) とは：
HD, MO の WINASPI 対応フォーマッタです。
REX-PCI33 に接続された MO, PD をフォーマットする場合、本プログラムをお使いください。HD は FDISK プログラムをご使用ください。
詳しくは、フォーマットユーティリティ (P39)を参照してください。

SCSI 機器確認 (WINSSC.EXE) とは：
REX-PCI33 に接続された SCSI 機器の接続状況、詳細情報を表示します。
SCSI 機器が接続されているか確認するとき、本プログラムをお使いください。詳しくは、SCSI 機器確認ユーティリティ (P41)を参照してください。

SCSI コンフィギュレーションユーティリティ (SCUINICW.EXE) とは：
REX-PCI33 の SCSI 構成情報を変更します。
特殊な設定が必要な SCSI 機器が接続されているとき、本プログラムをお使いください。詳しくは、SCSI コンフィギュレーション (P43)を参照してください。

SCSI 機器の確認

SCSI 機器を正しく認識しているかの確認は以下の手順で行います。

まだ、SCSI 機器を接続していない場合、または電源が入っていない場合、SCSI 機器の接続を行い、電源をいれてパソコンの再起動をしてください。

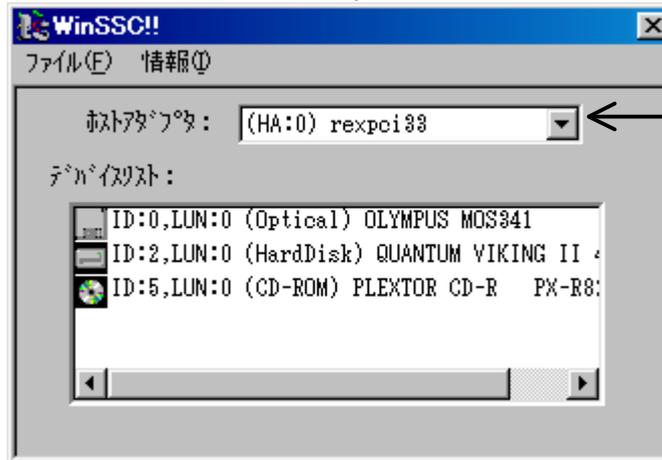
98

1. SCSI 機器の接続確認をします。

[スタート] [プログラム] [REX SCSI ユーティリティ] [SCSI 機器確認] を実行します。

95

2. ホストアダプタ：に「rexpci33」と表示がされるように変更します。



ホストアダプタに ESDI と表示されることがあります。
これは、パソコン本体の IDE CD-ROM が表示されるためです。
「rexpci33」に変更します。

例のように接続されている機器が表示されていれば、REX-PCI33 と SCSI 機器は完全に正しく動作しています。表示されない場合および「rexpci33」に変更できない場合、「WinSSC- Windows98/95 用 SCSI 機器接続確認ユーティリティ」(P41) を参照してください。

3. HD/MO/CD-ROM を接続した場合、マイコンピュータにそれぞれのアイコンが表示されています。

スワップファイルを SCSI ハードディスクに

98

この項目は SCSI ハードディスクより Windows 98/95 を起動している場合、関係ありません。EIDE ハードディスクより Windows 98/95 を起動する場合、パフォーマンス向上のためスワップファイルを高速な SCSI ハードディスクに変更する方法です。

95

C ドライブ(EIDE)に設定されているスワップファイルを D ドライブ(SCSI)に変更する例を示します。

マイコンピュータのアイコンを右クリックし[プロパティ]を選択します。

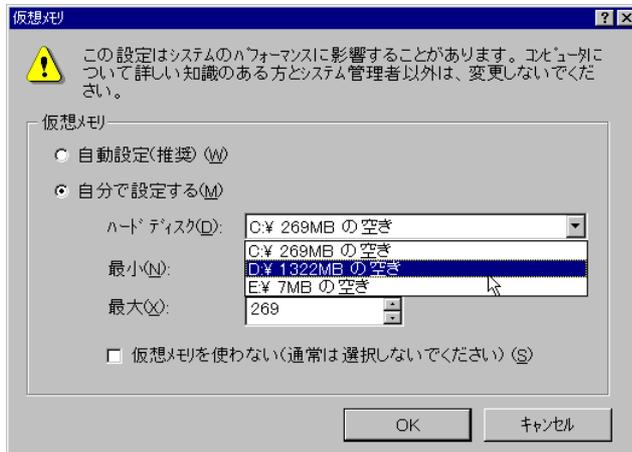
パフォーマンスのタグを選択します。



仮想メモリを選択してください。

[自分で設定する]を選択しハードディスクを D ドライブに変更します。

再起動すると設定が有効になります。



6. Windows 98/95 での SCSI ユーティリティについて

この章では、添付ディスク(Setup Disk1)に含まれるユーティリティソフトウェアについて説明していきます。

REXFMT95 - Windows 98/95 専用 SCSI フォーマットユーティリティ

REX-PCI33 に接続された SCSI 機器のフォーマットを行うには本プログラムをご使用ください。

1. [スタート]ボタンから表示される[プログラム]メニューの中にある[REX SCSI ユーティリティ]の[フォーマットユーティリティ]を起動します。
次のように接続されている機器のインクアイリ情報がホストアダプタごとに表示されます。フォーマットしたい機器を選択し[セレクト]を押します。



2. 選択後、次の画面が表示されます。区画番号に対して右クリックで[メディアの初期化]を選択します。[処理]タグの[メディアの初期化]を選択する方法もあります。



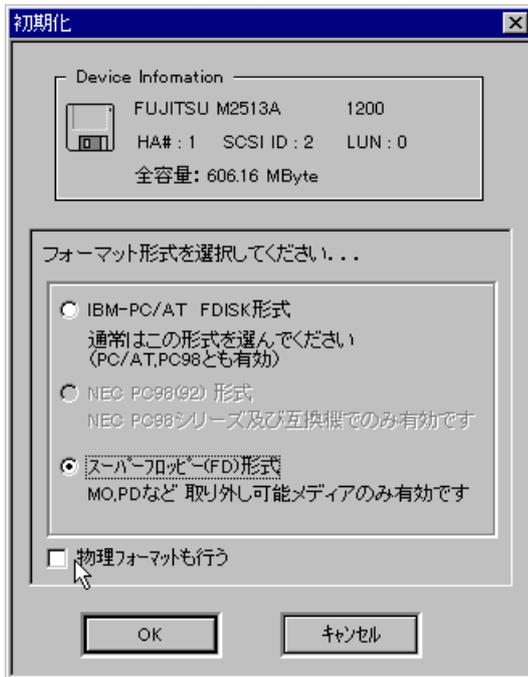
本プログラムの制限：

本プログラムでフォーマットしたメディアは、Windows システムのクイックフォーマットは使用できなくなります。ロングフォーマットを使用しなければなりません。DOS/V ブートディスクの作成はできません。ブートディスクを作成する場合は、FDISK および FORMAT コマンドをご使用ください。

3. 初期化の指定画面が表示されます。物理フォーマット(Low Level Format)を同時に行う場合、物理フォーマットも行うにチェックします。

98

95



この例では、640M0 をフォーマットしますので、[スーパーフロッピー形式]を選択します。

4. フォーマット後、区画をどのように設定するかを指定します。
本プログラムは FAT32 をサポートしていますのでファイルシステムにて FAT32 を選択することが可能です。



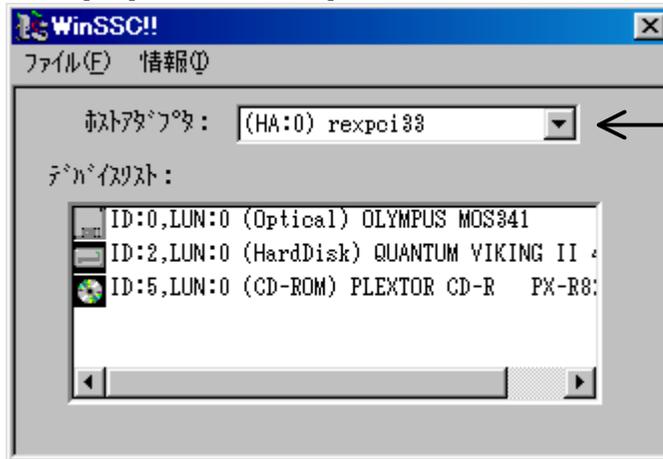
FAT32 を選択すると、FAT32 をサポートしている OS でのみアクセスが可能です。
(Windows95B(OSR2), Windows 98 でのみサポートしています)

5. フォーマット完了後、システムを再起動してください。

WinSSC - Windows 98/95 用 SCSI 機器接続確認ユーティリティ

SCSI PCカードに接続されているSCSI機器をWindows 98/95上から確認するためのユーティリティです。必ずパソコン起動前に、SCSI機器の電源を入れてください。

[スタート]ボタンから表示される[プログラム]メニューの中にある[REX SCSI ユーティリティ]の[SCSI 機器確認]を起動します。



ホストアダプタに ESDI と表示されることがあります。これは、パソコン本体の IDE CD-ROM が表示されるためです。
「rexpci33」に変更します。

[ホストアダプタ:]

接続されている SCSI インターフェイスの情報が表示されます。

CD-ROM ドライブを内蔵しているパソコンでは、この覧を [rexpci33] が表示されるように変更してください。

「rexpci33」と表示されないまたは変更できない場合、以下の原因が考えられます。

- REX-PCI33 のドライバが正しく動作していない。
- SCSI ケーブルが正しく接続されていない。(断線の可能性)
- 他メーカーの SCSI PC カードケーブルを使用している。
- SCSI 機器の電源が入っていない またはターミネータの設定がされていない。

[デバイスリスト:]

接続されている SCSI 機器の情報の一覧です。左から順に以下の項目が表示されます。

- SCSI 機器 ID 番号 (ID:)
- ロジカルユニット番号 (LUN:)
- デバイスタイプ (カッコ内)
- ベンダ名および型番

[再スキャン]

[ファイル]メニューの[再スキャン]は、最新情報を表示させるための機能です。

98

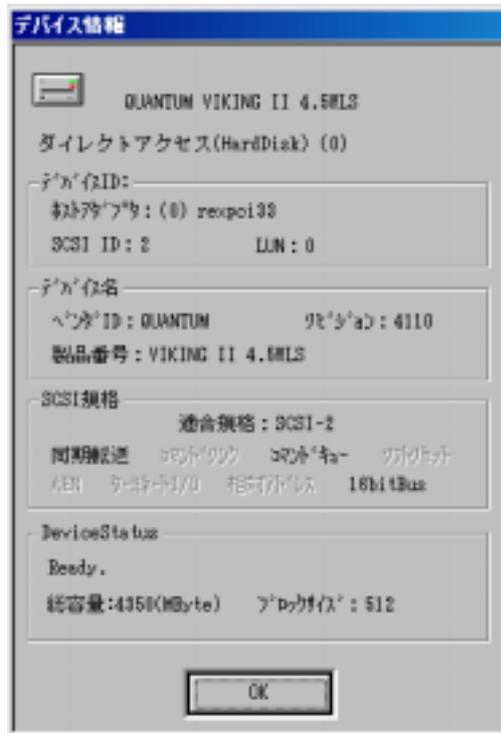
95

第6章 Windows 98/95 での SCSI ユーティリティについて

また、情報を確認したい機器の行を選択してダブルクリックすると詳細情報が表示されます。

SCSI機器の詳細情報の例

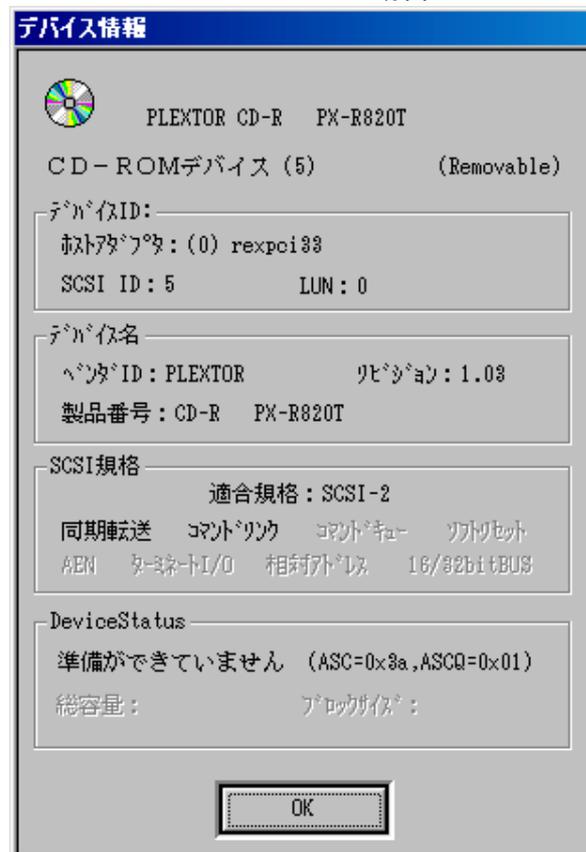
ハードディスクドライブの例



MOドライブの例



CD-ROM Writer の場合



SCUINICW - SCSI コンフィギュレーションユーティリティ

ここでは、SCSI コンフィギュレーションユーティリティプログラム(SCUINICW.EXE)の使用方法を説明します。 REX-PCI33 の EEPROM に SCSI 構成の設定値を参照および更新します。通常、初期値にてご使用できますが接続する SCSI 機器によっては変更する必要がある場合があります。必ず起動する前に、すべてのプログラムの実行を終了してください。また、SCSI 機器が接続されている場合は、念のために Windows を終了して一時的に SCSI 機器を取り外してください。

98

95

通常、設定の変更は必要なく初期値で最高のパフォーマンスで使用できますが、以下の SCSI デバイスを接続している場合は、設定の変更をする必要があります。

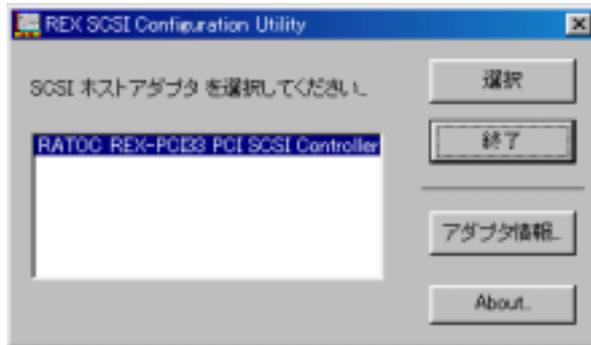
- ・ FUJITSU M2512A および M2513A の MO ドライブ
(転送速度を 10MB/S に設定が必要)
- ・ 一部の Scanner
(転送速度を非同期に設定が必要)

プログラム起動方法

[スタート] ボタンから [プログラム] [REXSCSI ユーティリティ] [SCSI コンフィギュレーション] を実行します。

実行中の他のプログラムをすべて終了させてください。

不可能な場合、「終了」を選択してください。

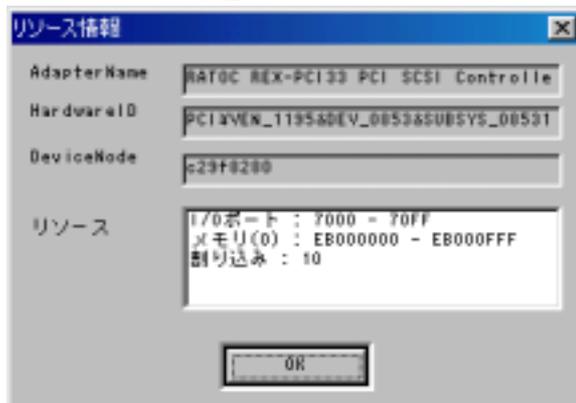


設定を行うカードの選択で RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller を選択します。

次項のコンフィギュレーション画面にて設定を、参照および更新してください。

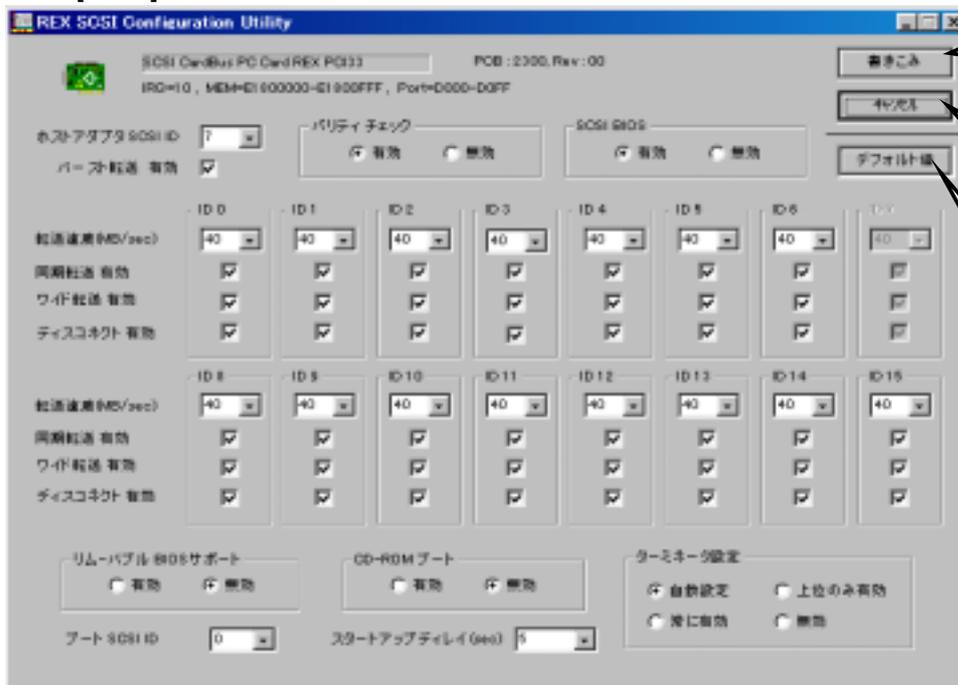
設定を終了したら [書き込み] を押してください。設定値が REX-PCI33 に書き込まれます。

アダプタ情報を選択すると以下のようにリソース情報が表示されます。



コンフィギュレーション画面

[選択]を選択すると次の画面が表示されます。



設定値の書き込みを行います

書き込まずに終了します。

設定値を初期値にします。

98

95

【ホスト SCSI ID】

初期値は 7 です。SCSI 機器で 7 以外使用できない場合のみ変更してください。

WideSCSI に対応していない機器を接続する場合は、0~7 の範囲で設定してください。

【パリティ】

初期値は有効です。パリティチェック機能のない SCSI 機器がある場合、無効にしてください。

【転送速度】 < 40MB/S 、 20MB/S、 10MB/S の切替 >

初期値は 40MB/S です。転送速度は SCSI カードと SCSI 機器の最初のネゴシエーション時に 40MB/S、26.6MB/S、20MB/S と落として可能な速度を決定します。

【同期転送】 < 有効・無効の切替 >

初期値は有効です。非同期の SCSI 機器の場合、無効（非同期）を選択してください。また、動作が安定しないとき無効に設定してみてください。

【ワイド転送】 < 有効・無効の切替 >

初期値は有効です。ワイド転送できない SCSI 機器の場合、自動的にワイド転送モードでなくなります。自動切換えができない場合、無効に設定します。このとき転送速度の数値が半分の値に変更されます。

【ディスクコネクト】 < ディスクコネクト/リコネクトの切替 >

初期値はすべての ID で有効です。SCSI デバイスを一時的に SCSI バスから切り離すことができます。これによりデバイスを一時的に切り離している間に、SCSI カードがバスの他の機能を高速に実行できることがあります。バスが必要な場合に、デバイスと SCSI カードを再度接続することができます。

SCSI 機器接続時動作が安定しない場合、同期転送無効、ワイド転送無効、ディスクコネクト無効の設定にしてみてください。

7. 起動ディスク(DOS)での使用について

この章では、Windows 98 起動ディスク（フロッピーディスク）または Windows 95 起動ディスク（フロッピーディスク）よりシステム起動して REX-PCI33 に接続した SCSI CD-ROM をアクセスする方法について説明します。

SCSI CD-ROM をアクセスできるようになったあと Windows 98/95 の CD-ROM より SETUP.EXE を起動することが可能となり Windows 98/95 のインストールを行えます。

Windows 98 起動ディスクの編集

Dos

Windows 98 の起動ディスクより、REX-PCI33 に接続してある SCSI CD-ROM より Windows 98 をインストールしたい場合、次の様に行います。

Windows 98 の起動ディスクの初期メニューで“Start computer with CD-ROM support”が選択できますが、そのままでは SCSI CD-ROM をアクセスできません。

この CD-ROM は IDE の CD-ROM を示します。SCSI CD-ROM からのインストールの場合以下の手順で編集が必要です。

1. Windows 98 の起動ディスク(1/2)の CONFIG.SYS を編集してください。

変更前：

変更後：

[CD]

device=himem.sys /testmem:off

device=oakcdrom.sys /D:mscd001

device=btosm.sys

device=flashpt.sys

device=btcdrom.sys /D:mscd001

device=aspi2dos.sys - > 削除

device=aspi8dos.sys - > 削除

device=aspi4dos.sys - > device=ASP850.SYS /D

device=aspi8u2.sys - > 削除

device=aspicd.sys /D:mscd001 - > device=REXCD.SYS /D:mscd001

2. Windows 98 の起動ディスク(1/2)の aspi2dos.sys, aspi8dos.sys, aspi4dos.sys, aspi8u2.sys を削除します。
3. REX-PCI33 の Setup Disk1 の DOS ディレクトリより ASP850.SYS と REXCD.SYS を、Windows 98 の起動ディスク(1/2)にコピーします。
4. Windows 98 の起動ディスク(1/2)よりシステム起動し、Start computer with CD-ROM support を選択します。
以降、SCSI CD-ROM が割り当てられますので、そこから SETUP を行います。

Windows 95 起動ディスクの編集

Windows 95 の起動ディスクより、REX-PCI33 に接続してある SCSI CD-ROM より Windows 95 をインストールしたい場合、次の様に行います。
Windows 95 の起動ディスクのままでは、SCSI CD-ROM をアクセスできません。

1. Windows 95 の起動ディスクの CONFIG.SYS を編集してください。

変更前：

```
DEVICE=HIMEM.SYS
BUFFERS=20
FILES=60
DEVICE=BILING.SYS
DEVICE=JFONT.SYS /MSG=OFF
DEVICE=JDISP.SYS /HS=LC
DEVICE=JKEYB.SYS
```

変更後：

```
                挿入                - > DEVICE=ASP850.SYS /D
                挿入                - > DEVICE=REXCD.SYS /D:OEMCD001
REM  DEVICE=SAMPLE.SYS /D:OEMCD001
LASTDRIVE=Z
```

2. Windows 95 の起動ディスクの AUTOEXEC.BAT に次の記述があることを確認してください。

```
@echo off
PROMPT $P$G
MSCDEX.EXE /D:OEMCD001    (この記述があることを確認)
```

3. Windows 95 の起動ディスクの SAMPLE.SYS を削除します。
4. REX-PCI33 の Setup Disk1 の DOS ディレクトリより ASP850.SYS と REXCD.SYS を、Windows 95 の起動ディスクにコピーします。
5. Windows 95 の起動ディスクよりシステム起動します。
以降、SCSI CD-ROM が割り当てられますので、そこから SETUP を行います。

Dos

Drive Image 起動ディスクの編集

Drive Image にて使用する MO (光磁気ディスク) 等を起動ディスクから認識できるようにします。

ドライブイメージソフトウェアの起動ディスク(1/2)の CONFIG.SYS を編集してください。CONFIG.SYS の内容は次のようになっています。追加部を書き加えます。

```
LASTDRIVE=Z
REM Put Network or CD-ROM Drivers here.
DEVICE=ASP850.SYS /D           (ASPI Manager)      追加
DEVICE=REXDISK.SYS           (DISK ドライバ)      追加
```

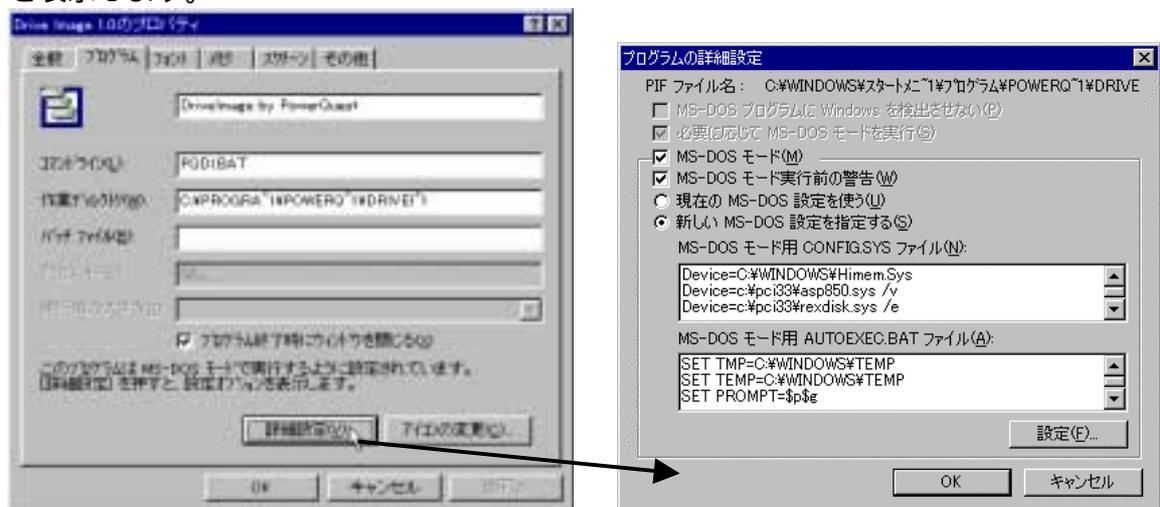
ASP850.SYS、REXDISK.SYS は、本製品添付の Setup Disk よりコピーしてください。

Dos

REXDISK.SYS が実行されると、MO / ハードディスク等にドライブ名を割り当てます。ドライブイメージのリストア時に、このドライブ名を指定します。

Windows 98/95 の Drive Image アイコン起動で、MO 等を認識させるには、以下の場所にある CONFIG.SYS を上記のように修正する必要があります。

[スタート] より右クリックし [開く] を選択し Drive Image のアイコンのプロパティを表示します。



詳細設定を押すと右の画面が出てきますので、新しい MS-DOS 用設定を指定するを選択し MS-DOS モード用 CONFIG.SYS ファイルを編集します。

例のように追加します。

```
DEVICE=ASP850.SYS /D           (ASPI Manager)      追加
DEVICE=REXDISK.SYS           (DISK ドライバ)      追加
```

PCI33 ディレクトリを作成し、ASP850.SYS と REXDISK.SYS をコピーします。

Drive Image アイコンをクリックするだけで、Drive Image から REXDISK.SYS の割り当てたドライブ名が使用できます。

第7章 起動ディスク(DOS)での使用について

SCSI CD-ROM をアクセスする

CONFIG.SYS に ASPI マネージャの登録を行います。
CONFIG.SYS の最終行に、以下の記述を追加します。

```
DEVICE=ASP850.SYS /D           (ASPI Manager)  
DEVICE=REXCD.SYS /D:PCMCIACD  (CD-ROM ドライバ)
```

の2行を追加します。

AUTOEXEC.BAT の最終行に、以下の記述を追加します。

```
A:=%DOS%MSCDEX /D:PCMCIACD  (CD-ROM Extension)
```

の1行を追加します。

Dos

ASP850.SYS、REXCD.SYS は、本製品添付の Setup Disk1 よりコピーしてください。MSCDEX は、MS-DOS 6.2 以降の OS よりコピーしてください。

REXCD.SYS が実行されると、デバイス名 PCMCIACD を登録します。

MSCDEX.EXE が実行されると、デバイス名 PCMCIACD を探しそのドライブにドライブ名を割り当てます。

AUTOEXEC.BAT の中に既に MSCDEX の記述がある場合がありますのでそこは削除します。

DVD の CD-ROM のみをアクセスする場合も上記の方法で使用可能です。

SCSI DVD-RAM をアクセスする

Panasonic DVD LF-100J においては MS-DOS をサポートしてありますので以下の方法で使用できます。

CONFIG.SYS に ASPI マネージャの登録を行います。
CONFIG.SYS の最終行に、以下の記述を追加します。

```
DEVICE=ASP850.SYS /D           (ASPI Manager)  
DEVICE=DVDHOOK.EXE           (DVD Emuration ドライバ)  
DEVICE=MSDRVR.SYS -ot3 -ob -th- -L -o2k (DISK ドライバ)  
DEVICE=MCDPD.SYS /D:OEMCD001 /T3      (PD/CD ドライバ)
```

の4行を追加します。

ASP850.SYS は、添付の Setup Disk1 よりコピーしてください。

DVDHOOK.EXE、MSDRVR.SYS、MCDPD.SYS は、DVD に添付 (CD-ROM) の DOS 用ドライバからコピーしてください。

MSDRVR.SYS が実行されると、DVD-RAM にドライブ名を割り当てます。

ASP850.SYS のパラメタ

REX-PC133 SCSIボードのASPIマネージャです。

ASP850.SYS の書式

```
DEVICE=<ディレクトリパス>¥ASP850.SYS [/L] [/D]
```

オプション

- /L LUN(Logical Unit NO)
ロジカルユニットNOの取り扱いを指定します。初期値はLUN=0のみサーチします。
PD、CD-ROM Changerを使用する場合、/L オプションを付加します。
- /D Display (表示)
このオプションを付加すると実行時、各種情報の表示を行います。
表示項目としてI/Oポートアドレス、IRQ、接続機器情報があります。

Dos

実行時の表示例

```
REX Universal ASPI Manager x.xx  
ASPI HOST Adapter #0 I/O Port 1000h IRQ 10 SCSI ID 7  
SCSI ID #4 TYPE 5 : MATSHITA PD-2 LF-D100 A106
```

REXCD.SYS のパラメタ

ASPIマネージャ対応のDOS上で動作するCD-ROMデバイスドライバです。

REXCD.SYS の書式

```
DEVICE=<ディレクトリパス>¥REXCD.SYS [/D:<デバイス名>] [/U:1]  
[ /ScanID:id+id+.... ] [ /NoScanID:id+id+.... ] [ /N:1 ] [ /E ] [ /HA:0 ]
```

オプション

- /D:<デバイス名>
この CD-ROM デバイスに付けるデバイス名を指定します。このデバイス名が「MSCDEX.EXE」の「/D:」オプションに指定するデバイス名になります。
- /U:1
接続する CD-ROM ドライブが1台だけの場合の指定です。
CD-ROM ドライブが1台だけ接続されていることを前提として動作するCD-ROMソフト用のオプションです。接続する CD-ROM ドライブが1台だけの場合は、必ずこのオプションを指定してください。
このオプションを省略した場合、SCSI-ID 番号「0」から「6」を順に検索して接続されている CD-ROM ドライブをすべて登録します。

第7章 起動ディスク(DOS)での使用について

/ScanID:id+id+....

REXCD.SYSが対象とするCD-ROMドライブのSCSI-ID番号を指定します。

REXCD.SYSは通常SCSI-ID 0~6 を順番スキャンして接続されているCD-ROMドライブを検索します。

しかし、このオプションを指定することにより特定のSCSI-IDのみ検索させることが可能となり、ドライバの起動時間を短縮できます。

たとえば、SCSI-ID 0と1のみを対象とする場合、「/ScanID:0+1」と記述すれば、2~6のSCSI機器については検索しません。

/NoScanID:id+id+....

先の「/ScanID」オプションと反対に REXCD.SYS の対象外とする SCSI-ID 番号を指定します。

たとえば、SCSI-ID 5 と 6 のみを対象外とする場合、「/NoScanID:5+6」と記述すれば、5~6のSCSI機器については検索しません。

Dos

/N:1

接続する CD-ROM ドライブに対してロジカルユニットの検索を行いません。

「REXCD.SYS」は起動時に、ロジカルユニット番号「0」から「7」を順に検索して接続されている CD-ROM ドライブの論理ドライブ数を調べます。ところが、旧型の CD-ROM ドライブでロジカルユニット番号「0」以外でアクセスするとドライブ側が異常になる場合があります。このような場合には、必ずこのオプションを指定してください。

また、CD-Changer 等ロジカルユニットの指定が必要なドライブの場合にはこのオプションは指定しないでください。

/E

ドライバの表示メッセージを英語にします。

英語 DOS 環境で使用する場合に指定します。

/HA:0

対象とするホストアダプタの番号を指定します。

省略した場合、0（1枚目）が仮定されます。

実行時の表示例

```
ASPI マネージャ対応 CD-ROM デバイスドライバ
  REX-CD Ver x.xx yymmdd
  RATOC System,inc.

CD-ROM SCSI_ID: 6 : MATSHITA PD-2 LF-D100
デバイス名 : PCMCIACD
```

REXDISK.SYS のパラメタ

ASPI マネージャ対応のDOS上で動作するハードディスク / 光磁気ディスク用デバイスドライバです。REXDISK.SYSは、SCSI-ID番号が 8 ~ 15のWideSCSI機器が接続されている場合に使用します。

REXDISK.SYS の書式

```
DEVICE=<ディレクトリパス>¥REXDISK.SYS [/Rn1+n2+n3+....] [/LOCK | /UNLOCK]
[/A] [/DUMMY] [/REMOVABLE] [/ScanID:id+id+....]
[/NoScanID:id+id+....] [/Hxx[:id+....]] [/E] [/HA:0]
```

オプション

/Rn1+n2+n3+....

光磁気ディスク(MO)等の取り外し可能なメディア用の予約パーティション数を指定します。SCSI-ID 番号の若い順に指定します。また、「0」を指定した場合は、ドライブ起動時の状態によって割り当てるパーティション数が決定します。

メディアが挿入されている	メディアに存在する全パーティション数
メディアが挿入されていない	1パーティションのみ

この記述を省略すると「0」を指定した場合と同じ意味になります。

/LOCK /UNLOCK

光磁気ディスク(MO)等の取り外し可能なメディア用のドアのロック / アンロックを指定します。

/LOCK	ドライブのイジェクト・スイッチを押してもメディアは排出されません。
/UNLOCK	ドライブのイジェクト・スイッチを押すとメディアは排出されます。

この記述を省略すると「/UNLOCK」を指定した場合と同じ意味になります。

/A メディアのフォーマットが「NEC ハードディスク・フォーマット」と同等の場合に、「スリープ属性」のパーティションもドライブとして認識させる指定です。

/DUMMY

PC-DOS J6.1/V のディスク圧縮機能による不具合を回避するための指定です。

これにより、実際に割り当てるより 1 論理ドライブ余分に論理ドライブを確保します。ただし、余分に割り当たったドライブにはアクセスできません。たとえば、接続された機器で 4 ドライブ有効な場合、「/DUMMY」を指定すると以下のようになります。

A	フロッピー (1.44MB モード)	
B	フロッピー (1.44MB モード)	
C	内蔵ハードディスク	
D	フロッピー (1.2MB モード)	
E	フロッピー (1.2MB モード)	
F	SCSI 接続のハードディスク (区画 1)	
G	SCSI 接続のハードディスク (区画 2)	
H	SCSI 接続のハードディスク (区画 3)	
I	SCSI 接続のハードディスク (区画 4)	
J	ディスク圧縮機能との不具合回避用	×
K 以降	ディスク圧縮ドライブ	

第7章 起動ディスク(DOS)での使用について

/REMOVABLE

光磁気ディスク(MO)が Windows 3.1 のファイルマネージャ等におけるドライブのアイコン表示でフロッピーディスクと同様の取り外し可能なメディアのアイコンで表示されるようにします。

光磁気ディスク(MO)を「フロッピーディスクのフォーマット」で初期化することはできません。

/ScanID:id+id+....

REXDISK.SYS が対象とするハードディスク / 光磁気ディスクドライブの SCSI-ID 番号を指定します。

Dos

REXDISK.SYS は通常 SCSI-ID 0~6 を順番スキャンして接続されているハードディスク / 光磁気ディスクドライブを検索します。

しかし、このオプションを指定することにより特定の SCSI-ID のみ検索させることが可能となり、ドライブの起動時間を短縮できます。

たとえば、SCSI-ID 0 と 1 のみを対象とする場合、「/ScanID:0+1」と記述すれば、2~6 の SCSI 機器については検索しません。

/NoScanID:id+id+....

先の「/ScanID」オプションと反対に REXDISK.SYS の対象外とする SCSI-ID 番号を指定します。

たとえば、SCSI-ID 5 と 6 のみを対象外とする場合、「/NoScanID:5+6」と記述すれば、5~6 の SCSI 機器については検索しません。

/Hxx[:id+id+....]

このオプションは NEC PC-9821 シリーズ用の各種 SCSI インターフェイスカードを使用して初期化されたディスクを再フォーマットせずに認識させようとした場合に、REXDISK が認識しないときに指定します。

「/H」に続けてフォーマット形式と対象とするドライブの SCSI ID を指定します。

「xx」のフォーマット形式は以下のいずれかを指定します。

指定値	対象フォーマット
92	NEC製SCSIインターフェイスカード(PC-9801-92)によるもの
55	NEC製SCSIインターフェイスカード(PC-9801-55)によるもの
S2	サードパーティ製 (ICM等)SCSIインターフェイスカード
MELCO	サードパーティ製 (MELCO等)SCSIインターフェイスカード
FMO	REXFMT v1.xx でNEC HD形式にフォーマットしたMO

ドライブの SCSI ID を省略した場合は、すべてのドライブが対象になります。

ただし、NEC HD 形式以外でフォーマットされているディスクは対象外になります。

/I

NEC PC-98 シリーズで 640MB を使用する場合に指定します。

/Nostart

Start Unit の SCSI コマンドを発行しない場合に指定します。

/E

ドライバの表示メッセージを英語にします。

英語 DOS 環境で使用する場合に指定します。

/HA:0

対象とするホストアダプタの番号を指定します。

省略した場合、0 (1 枚目) が仮定されます。

Dos

実行時の表示例

```
ASPI マネージャ対応 ハードディスク・MO デバイスドライバ
  REXDISK Ver x.xx yymmdd
  Copyright(C) RATOC System, inc.
```

SCSI ID	デバイスタイプ	割り当てドライブ
#1	Hard Disk	F: G:
#6	Removable Media(MO)	H:



Dos

8. Windows NT インストール済みにて使用する

Windows NT へのインストール手順を、Windows NT インストール済みのパソコンに REX-PCI33 を取り付ける場合で説明します。Server および Workstation は同様に行えます。本製品添付の **Setup Disk 2** を用意してください。

Windows NT に SCSI アダプタ (ドライバ) を追加

既に Windows NT がインストールされている環境に REX-PCI33 のドライバを組み込む方法を説明します。この作業を進める前に SCSI ボード、SCSI ターミネータ、および Windows NT が正しくインストールされているかを確認してください。

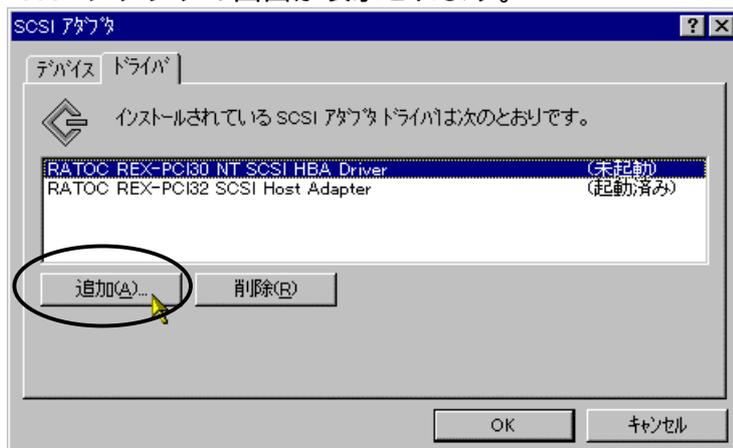
1. パソコンの電源を入れ Windows NT セッションを Administrator のユーザ権限のあるユーザで開始してください。

2. コントロールパネルから [SCSI アダプタ] のアイコンを起動します。



NT

3. SCSI アダプタの画面が表示されます。



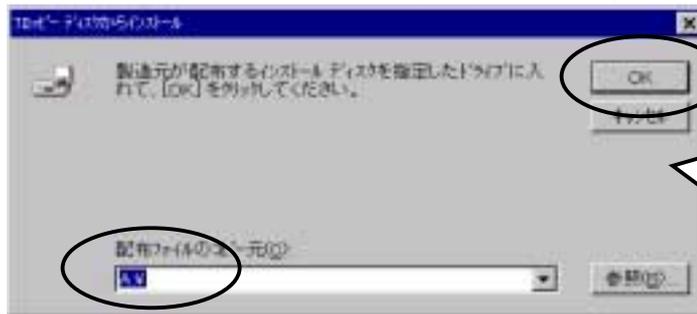
[ドライバ]を選択し、[追加]を選択します。

4. ドライバのインストール画面が表示されます。



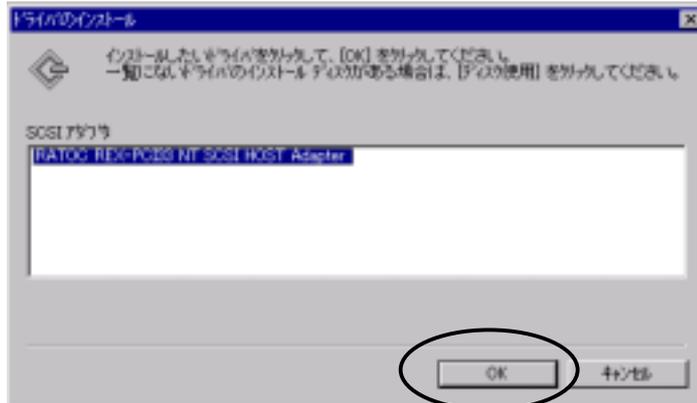
追加するドライバの一覧から [ディスクを使用] を選択します。

5. ドライバのインストール画面が表示されます。



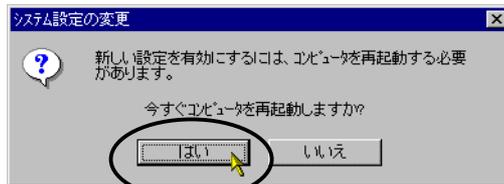
Setup Disk 2 をセットし [A:¥] と入力します。セットアップダイアログで [OK] を選択します。

6. SCSI アダプタの選択画面になります。



RATOC REX-PC133 NT SCSI Host Adapter を選択し、「OK」を押します。

7. ファイルのコピーが完了するとシステム再起動画面になります。



実行中のプログラムがないことを確認し、Setup Disk2 を抜き再起動してください。

ドライバ起動の確認

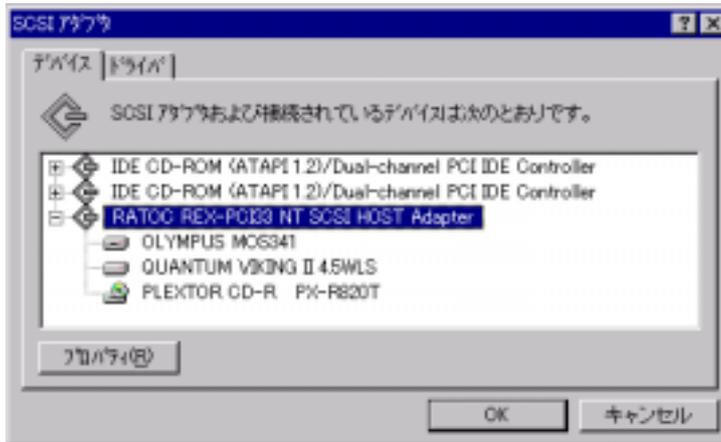
システム再起動時、エラーが出ないことを確認してください。

エラーが出た場合、スタートメニューの管理ツール（共通）のイベントビューワを起動して何がエラーを起こしているか確認してください。

ここでは、ドライバが正しく動作しているかの確認方法について説明します。

再起動後、コントロールパネルの SCSI アダプタを再度起動し、[RATOC REX-PCI33 NT SCSI HOST Adapter] が追加されていることを確認してそれを更にダブルクリックすると接続してある SCSI 機器が表示されます。

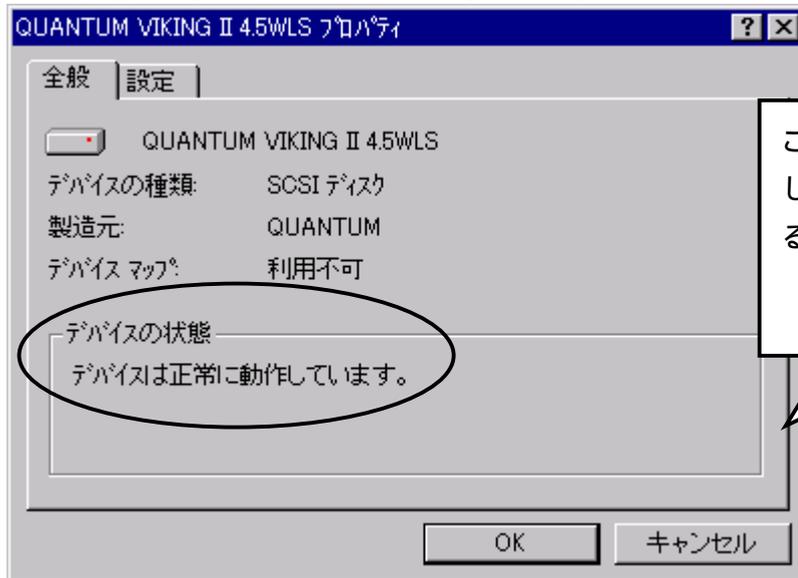
各項目に異常がないか [プロパティ] を押して確認し [OK] を選択します。



この例では、MO, HD, CDR が接続されています。

NT

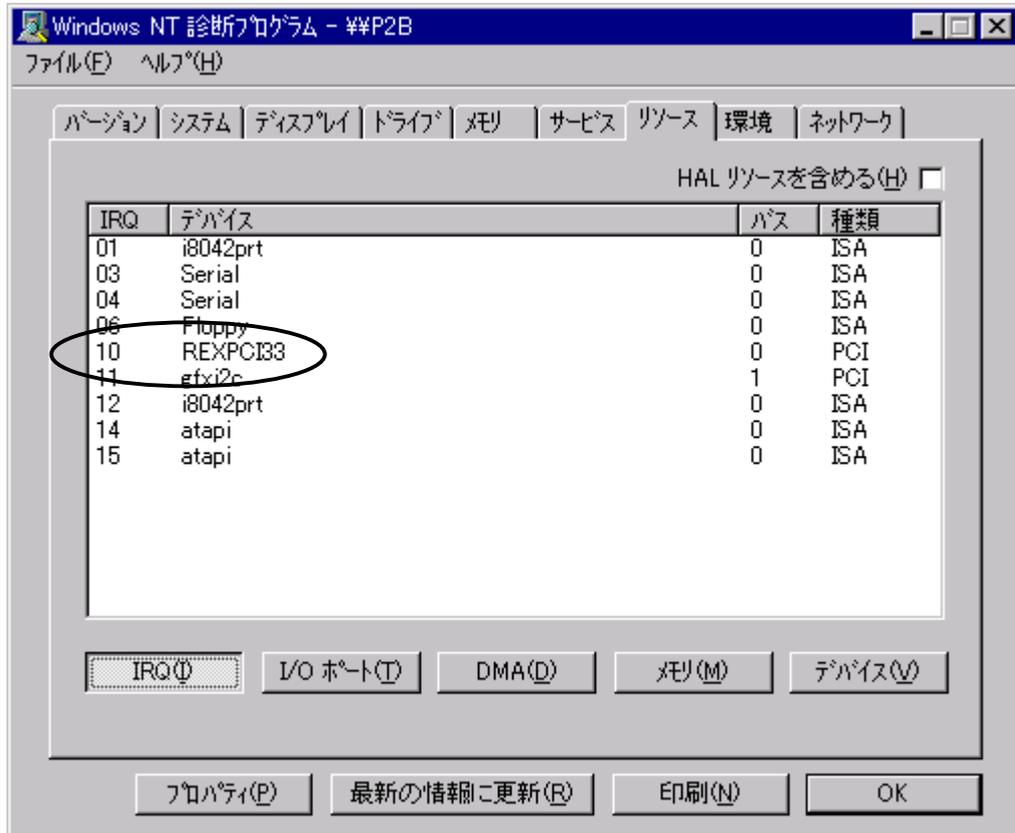
SCSI 機器を選択しプロパティを表示します。



このデバイスは正常に動作しています。と表示されていることを確認します。

デバイスマップは「利用不可」と表示されますが、これで正常な状態です。

また、システム全体から調査するには、スタートメニューから管理ツールの Windows NT 診断プログラムを起動します。[リソース]のタグで REX-PCI33 が IRQ のどれかに割り当たっていることを確認してください。



REXPCI33 が表示されていることを確認します。

NT

ドライバの有効/無効の切り替え

資源の衝突等の問題でドライバの起動を一時的に無効にすることができます。

SCSI HD より Windows NT を起動している場合、無効の設定をすると再度 Windows NT が立ち上がらなくなりますので行わないでください。

もし、誤って無効の設定を行ってしまった場合は、Windows NT 起動時のメニューで前回のシステム構成に戻すを選択してください。

1. コントロールパネルの
[デバイス] アイコンを
起動します。



2. デバイスの一覧から REXPCI33 を探します。

3. 状態が [開始] となっていれば、動作しています。

[ハードウェアプロファイル] を選択します。

次に、[無効] を選択します。

次回システム立ち上がり時、REX-PCI33 は動作しません。

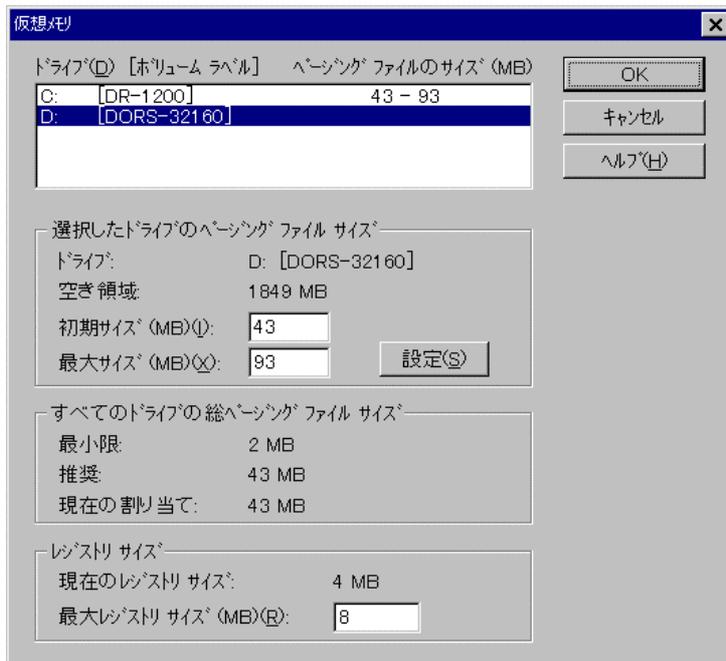
REX-PCI33 と同じ資源を使用する拡張ボードが有効になる可能性があります。

NT

スワップファイルを SCSI ハードディスクに

SCSI ハードディスクより Windows NT4.0 を起動している場合、関係ありません。 EIDE ハードディスクより Windows NT4.0 を起動する場合、パフォーマンス向上のためスワップファイルを高速な SCSI ハードディスクに変更する方法です。

1. マイコンピュータのアイコンを右クリックしプロパティを選択します。
2. システムのプロパティ [パフォーマンス] のタブを選択します。
3. [仮想メモリ] の欄の [変更] を選択します。
4. 仮想メモリの構成を変更します



この例では、C ドライブが EIDE ハードディスクで D ドライブが SCSI ハードディスクです。

D ドライブの構成で初期サイズ、最大サイズを C ドライブと同様の容量を確保するとよいでしょう。

C ドライブの構成は “ なし ” に設定します。

5. システムを再起動してください。
仮想メモリの設定が有効となります。

SCSI ユーティリティのインストール

SCSI コンフィギュレーションユーティリティ (SCUINICN.EXE) のインストールを行います。

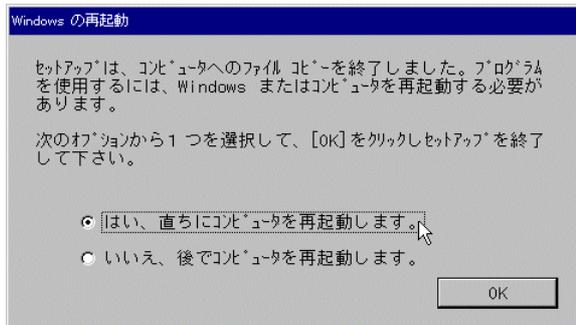
1. 添付の Windows NT 用 Setup Disk 2 をフロッピーディスク装置にセットしデスクトップ画面の [マイコンピュータ] からフロッピーディスクのアイコンをダブルクリックします。
2. SCSIUT ディレクトリの SETUP.EXE をダブルクリックして起動します。



「次へ」を押してください。

NT

3. 画面の指示に従ってインストールを進めます。
4. SCSI ユーティリティのインストールが正常に終了すると [スタート] ボタンからのプログラムメニューの中に [REX SCSI ユーティリティ] が追加されています。
5. システム再起動画面が表示されます。



Setup Disk 2 を抜いて、必ず再起動してください。

再起動しない場合、ユーティリティが正しく動作しない場合があります。

SCSI コンフィギュレーションユーティリティ (SCUINICN.EXE) とは :
REX-PCI33 の SCSI 構成情報を変更します。
特殊な設定が必要な SCSI 機器が接続されているとき、本プログラムをお使いください。詳細は、SCSI コンフィギュレーションユーティリティ (P63) を参照してください。



NT

9. Windows NT 用 SCSI ユーティリティについて

ここでは、SCSI コンフィギュレーションユーティリティプログラム(SCUINICN.EXE)の使用方法を説明します。 REX-PCI33 の EEPROM に SCSI 構成の設定値を参照および更新します。通常、初期値にてご使用できますが接続する SCSI 機器によっては変更する必要がある場合があります。必ず起動する前に、すべてのプログラムの実行を終了してください。また、SCSI 機器が接続されている場合は、念のために WindowsNT を終了して一時的に SCSI 機器を取り外してください。

通常、設定の変更は必要なく初期値で最高のパフォーマンスで使用できますが、以下の SCSI デバイスを接続している場合は、設定の変更をする必要があります。

- ・ FUJITSU M2512A および M2513A の MO ドライブ
(転送速度を 10MB/S に設定が必要)
- ・ 一部の Scanner
(転送速度を非同期に設定が必要)

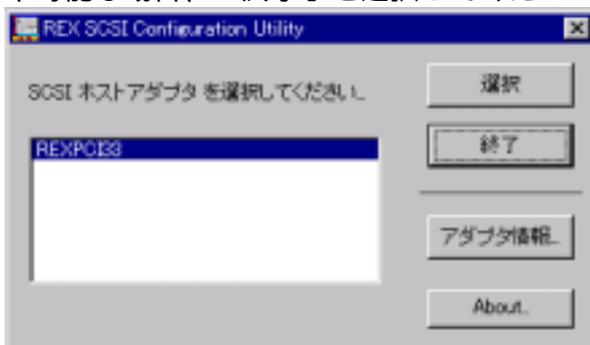
NT

プログラム起動方法

[スタート] ボタンから [プログラム] [REXSCSI ユーティリティ] [SCSI コンフィギュレーション] を実行します。

実行中の他のプログラムをすべて終了させてください。

不可能な場合、「終了」を選択してください。



設定を行うカードの
選択で REXPCI33 を選
択します。

次項のコンフィギュレーション画面にて設定を、参照および更新してください。

設定を終了したら [書き込み] を押してください。設定値が REX-PCI33 に書き込まれます。

アダプタ情報を選択すると以下のようにリソース情報が表示されます。



コンフィギュレーション画面

[選択]を選択すると次の画面が表示されます。



NT

【ホスト SCSI ID】

初期値は7です。SCSI 機器で7以外使用できない場合のみ変更してください。

WideSCSI に対応していない機器を接続する場合は、0~7の範囲で設定してください。

【パリティ】

初期値は有効です。パリティチェック機能のない SCSI 機器がある場合、無効にしてください。

【転送速度】 <40MB/S、20MB/S、10MB/Sの切替>

初期値は40MB/Sです。転送速度は SCSI カードと SCSI 機器の最初のネゴシエーション時に40MB/S、26.6MB/S、20MB/Sと落として可能な速度を決定します。

【同期転送】 <有効・無効の切替>

初期値は有効です。非同期の SCSI 機器の場合、無効（非同期）を選択してください。また、動作が安定しないとき無効に設定してみてください。

【ワイド転送】 <有効・無効の切替>

初期値は有効です。ワイド転送できない SCSI 機器の場合、自動的にワイド転送モードでなくなります。自動切換えができない場合、無効に設定します。このとき転送速度の数値が半分の値に変更されます。

【ディスコネクト】 <ディスコネクト/リコネクトの切替>

初期値はすべての ID で有効です。SCSI デバイスを一時的に SCSI バスから切り離すことができます。これによりデバイスを一時的に切り離している間に、SCSI カードがバスの他の機能を高速に実行できることがあります。バスが必要な場合に、デバイスと SCSI カードを再度接続することができます。

SCSI 機器接続時動作が安定しない場合、同期転送無効、ワイド転送無効、ディスコネクト無効の設定にしてみてください。

10. DOS/Windows 3.1で使用する

DOS/Windows 3.1 のインストール手順を SCSI ハードディスクの初期化作業より説明します。

SCSI ハードディスクを御使用頂くと EIDE タイプのハードディスクより、Windows 3.1 の立ち上げ、およびアプリケーションの起動、マルチタスク処理等が快適になります。

DOS システムのインストール

MS-DOSまたはPC-DOSのシステムフロッピーディスクを用意します。

ここでは、例としてIDEハードディスクは接続されてなく、SCSIハードディスクをCドライブとしてここにインストールする場合について説明します。

1. インストールシステムディスクの NO.1 をセットしてシステムリセットしてください。インストーラが立ち上がります。
2. 指示に従って、インストールを行ってください。
インストールの中で FDISK.EXE および FORMAT.EXE が起動されます。
画面の中で、FDISK.EXE で SCSI ハードディスクが参照できれば、基本 DOS 領域の作成を行ってください。できない場合、ハードウェアの接続に問題があります。
接続の確認は、SCSI-BIOS の SCSI コンフィギュレーション <Ctrl + I > を使用して設定の確認ができることを確認してください。
3. SCSI CD-ROM、SCSI MO 等を接続する場合、ASPI マネージャ (ASP850.SYS) をインストールします。また ASPI 対応 CD-ROM ドライバ、ASPI 対応 DISK ドライバをインストールする必要があります。
インストール方法は、後述の「CONFIG.SYS の書き換え」を参照してください。

Dos

CONFIG.SYS の書き換え

本製品添付の SCSI ボード用の各種ドライバを CONFIG.SYS に登録します。
例えば次のような記述を追加します。

```
REM ----REX-PC133----  
DEVICE=C:¥REXSCSI¥ASP850.SYS /L /D  
DEVICE=C:¥REXSCSI¥REXCD.SYS /D:MSCD001  
DEVICE=C:¥REXSCSI¥REXDISK.SYS
```

Dos

ASP850.SYS

REX-PC133 SCSI ボードの ASPI マネジャ。
パラメタの詳細は ASP850.SYS のパラメタ (P49) を参照願います。

REXCD.SYS

ASPI 仕様の CD-ROM ドライバ (ASPI モジュール)。
パラメタの詳細は REXCD.SYS のパラメタ (P49) を参照願います。

REXDISKW.SYS (REXDISK.SYS)

ASPI 仕様のハードディスク/MO 用ディスクドライバ (ASPI モジュール)。
REXDISK.SYS は Wide SCSI に対応していません。
パラメタの詳細は REXDISK.SYS のパラメタ (P51) を参照願います。

AUTOEXEC.BAT の書き換え

DOS システムの CD-ROM エクステンションを AUTOEXEC.BAT に登録します。
例えば次のような記述を追加します。

```
REM ----REX-PC133----  
C:¥DOS¥MSCDEX.EXE /D:MSCD001
```

Windows 3.1 での ASPI モジュールの組み込み方法

1. vaspirex.386 と winaspi.dll を
Windows システムディレクトリ (C:¥Windows¥System) にコピーします。
2. SYSTEM.INI ファイルに次の行を追加します。
[386Enh]セクション
device=vaspirex.386 この行を追加
3. システム再起動します。

書式 2 - 光磁気ディスク (MO) の初期化

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /MO:[ FD | IBM | NEC ] [ /INIT ]  
[ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

光磁気ディスク(MO)のフォーマットを実行します。

書式 3 - 区画の確保

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /PAT[<確保容量>] [/Hxx]  
[ /LABEL:<ボリュームラベル>]  
[ /KNAME[:<区画名>] ] [ /SLEEP | /ACTIVE ]  
[ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

ハードディスクに区画を確保します。

書式 4 - 区画の削除

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /DEL:<区画番号> [ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

ハードディスクから区画を削除します。

書式 5 - 区画属性の変更

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] [ /SLEEP:<区画番号> | /ACTIVE:<区画番号> ]  
[ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

NEC HD形式でフォーマットしたメディアの区画属性を変更します。

SSC.EXE - SCSI 機器接続確認コマンド

REX-PCI33に接続されているSCSI機器を確認するためのコマンドです。

このプログラムを実行するには、ASPIマネージャが登録されている必要があります。

Wide-SCSI機器を接続の場合、SSCW.EXEをご使用ください。

ID番号15まで順番にスキャンします。

書式

```
SSC [%Adapter_No] [#SCSI_ID]
```

%Adapter_No ホストアダプタ番号を指定します。

 この指定は、REXFMT.EXE と同様です。

#SCSI_ID 対象 SCSI 機器の SCSI-ID 番号を指定します。

 省略時は、ID 番号 0 から 6 まで順番にスキャンして表示します。

12. 仕様について

この章では、SCSI に関する補足説明を行います。

REX-PC133 SCSI・BUS 仕様

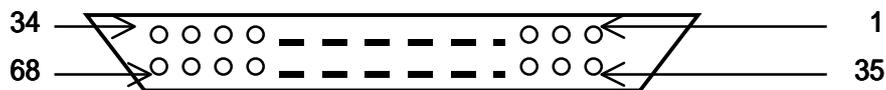
項目	内容
SCSIインターフェイス	Ultra Wide SCSIおよびUltraSCSI データバス幅16ビットおよび8ビット 最大同期転送速度 40MB/Sec (理論値)
インターフェイス	32ビットPCIバス Rev 2.1準拠
データ転送方式	バスマスタ・バースト転送
SCSI外部コネクタ	68ピン SCSI-3 Pコネクタ
SCSI内部コネクタ	68ピン SCSI-3 Pコネクタ
I/Oアドレス	100hバイト xx00h ~ xxFFh PCI BIOSより割り当て
BIOSメモリ	32Kメモリ空間 PCI BIOSより割り当て

REX-PC133 環境仕様

項目	内容
DC電圧	5.0V ± 5%
サイズ	奥行き142mm × 高さ90mm (突起物を除く)
動作保証温度	0 ~ 55 (結露しないこと)
保存保証温度	-20 ~ 70 (結露しないこと)

CN1, CN3 接続コネクタ仕様

フラットケーブル用ピンオス PCS-68 LFDT 相当 (内蔵)



信号名	Pin NO		Pin NO	信号名
+ SD12	1		35	- SD12
+ SD13	2		36	- SD13
+ SD14	3		37	- SD14
+ SD15	4		38	- SD15
+ SDP1	5		39	- SDP1
+ SD0	6		40	- SD0
+ SD1	7		41	- SD1
+ SD2	8		42	- SD2
+ SD3	9		43	- SD3
+ SD4	10		44	- SD4
+ SD5	11		45	- SD5
+ SD6	12		46	- SD6
+ SD7	13		47	- SD7
+ SDP0	14		48	- SDP0
GND	15		49	GND
DIFSEN	16		50	GND
TERMP	17		51	TERMP
TERMP	18		52	TERMP
N/C	19		53	N/C
GND	20		54	GND
+ ATN-	21		55	- ATN-
GND	22		56	GND
+ BSY-	23		57	- BSY-
+ ACK-	24		58	- ACK-
+ RST-	25		59	- RST-
+ MSG-	26		60	- MSG-
+ SEL-	27		61	- SEL-
+ CD-	28		62	- CD-
+ REQ-	29		63	- REQ-
+ IO-	30		64	- IO-
+ SD8	31		65	- SD8
+ SD9	32		66	- SD9
+ SD10	33		67	- SD10
+ SD11	34		68	- SD11

13 . トラブルシューティング

REX-PCI33 のドライバを完全削除するには(Win98/95)

Q:

インストールの途中で、Setup Disk1 からの読み込みを行わず「完了」を押してしまいました。再度、REX-PCI33 を装着しましたが、新しいハードウェアの追加が行われません。

A:

インストールに失敗した場合など REX-PCI33 環境を完全に取り除く方法を説明します。以下の 3 つの作業からなります。

- デバイスツリーからの削除
- ドライバファイルと INF ファイルの削除
- レジストリの削除

デバイスツリーからの削除

1. コントロールパネルを開きます。
[スタート] - [設定(S)] - [コントロールパネル(C)] メニューで開きます。
2. コントロールパネルの中の [システム] を起動します。
[システム] アイコンをダブルクリックします。
3. デバイスマネージャを開きます。
[デバイスマネージャ] タグを選択するとデバイスツリー表示に切り替わります。
4. SCSI BOARD を削除します。
[SCSI コントローラ] の [+] をクリックして [RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller...] がある場合、それを選択して [削除] ボタンをクリックします。
SCSI コントローラにない場合 [その他のデバイス] の [+] をクリックしてその中に登録されていないか確認します。

ドライバファイルと INF ファイルの削除

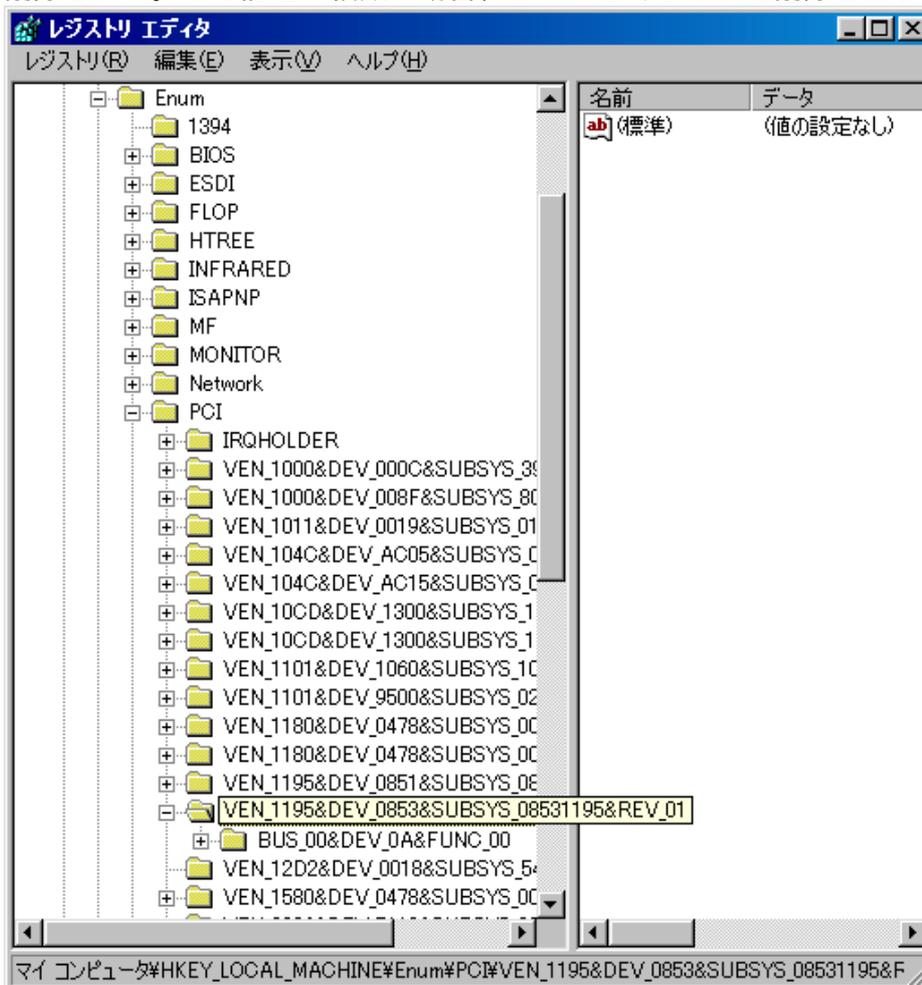
1. [マイコンピュータ] を開き、[表示(V)] - [オプション(O)] にて [すべてのファイルを表示(S)] をチェックします。
2. [スタート] ボタンから [検索] - [ファイルやフォルダ] を選択します。
3. [名前(N):] に「REXPCI33.MPD」と入力します。
4. [探す場所(L):] に Windows 98/95 がインストールされているディレクトリ名を入力します。
5. [検索開始(I)] をクリックします。
6. [REXPCI33.MPD] が表示されたら、それを選択して削除キー (DEL) を押して削除します。通常 [Windows\system%iosubsys] ディレクトリにあります。

第 13 章トラブルシューティング

7. [名前(N):] に「PCI33RATOCREXPCI33.INF」と入力します。
8. [探す場所(L):] に Windows 98/95 がインストールされているディレクトリ名を入力します。
9. [検索開始(I)] をクリックします。
10. [PCI33RATOCREXPCI33.INF] が表示されたら、ファイルを開いて REX-PCI33 の情報ファイルであることを確認します。
そのファイル(PCI33RATOCREXPCI33.INF)を選択して削除キー (DEL) を押して削除します。通常[Windows¥inf¥other]ディレクトリにあります。

レジストリの削除

1. [スタート] ボタンから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [名前(O):] に「REGEDIT」と入力して [OK] ボタンをクリックします。
3. [HKEY_LOCAL_MACHINE] - [Enum] - [PCI] と順番に開きます。そして、文字列が [RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller] と登録されているか確認します。そのキー (VEN_1195&DEV_0853&SUBSYS_08531195&REV_01) を選択して削除キー (DEL) を押して削除します。この記述が複数の場合、すべてなくなるまで削除します。



4. 削除したらレジストリエディタを終了します。
これで完全にドライバは削除されました。

Windows 98 でドライバ更新する場合

Q:

インターネット等より、新しいドライバFD を入手したのだが組み込みには？

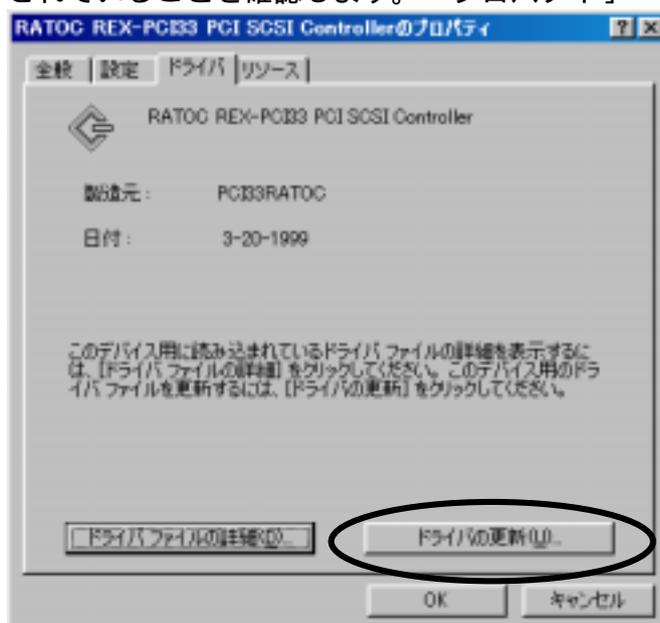
A:

ここでは、ハードディスクの DOWNLOAD ディレクトリの中に REX-PCI33 ディスクがダウンロードできているものとして説明します。

1. DOWNLOAD ディレクトリに PCI33_02.EXE (仮称) があることを確認します。
2. PCI33_02.EXE をダブルクリックして実行します。
3. 解凍実行画面が表示され複数のファイルが登場します。
4. PCI33_02.EXE ファイルを削除します。
5. DOWNLOAD ディレクトリのプロパティを参照して、DOWNLOAD ディレクトリが 1.44MB 以下の容量がチェックします。
6. 1.44MB フォーマット済みの空のフロッピーディスクを用意します。
7. DOWNLOAD ディレクトリ内のすべてのファイルを選択して、フロッピーディスクにコピーし、ラベルに REX-PCI33 Setup Disk 1 xx/xx/xx 版 (ReadMe ファイルのタイムスタンプ) と記載します。

新しいバージョンの Setup Disk 1 が完成しました。続いて、ドライバの更新を行います。

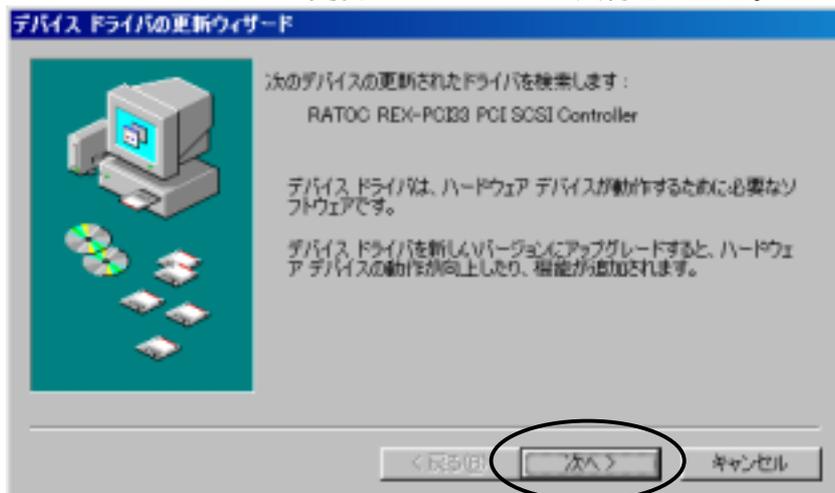
1. コントロールパネルのシステムを開きます。さらにデバイスマネージャを選択します。
2. SCSI コントローラをクリックし、「RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller」と表示されていることを確認します。「プロパティ」「ドライバ」を表示します。



「ドライバの更新」を押します。

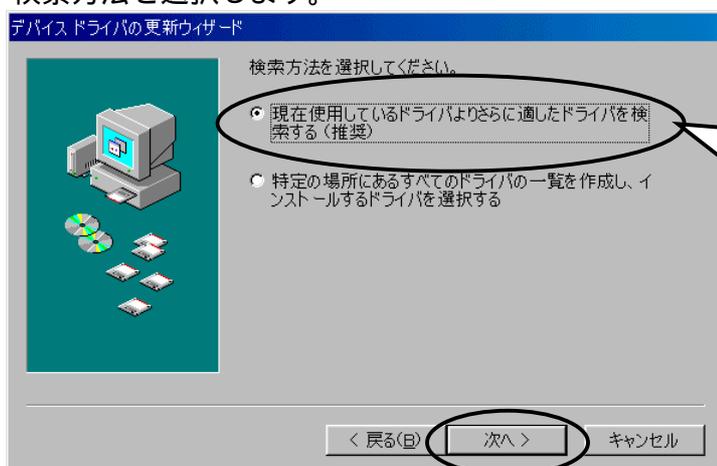
第 13 章トラブルシューティング

3. 「デバイスドライバの更新ウィザード」が実行されます。



「次へ」を
選択します。

4. 検索方法を選択します。



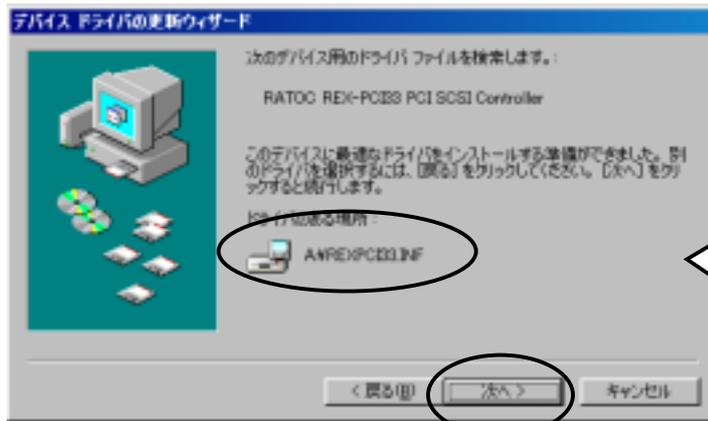
「さらに適したドライ
バを検索する(推奨)」
を選択します。
「次へ」を選択します。

5. 検索する場所を問い合わせてきます。



「 フロッピーディスク
ドライブ」を選択し、先ほど
作成した新しい Setup Disk1
をセットします。「次へ」を
選択します。

6. 読み込み元のドライバ確認の画面になります。



A:\REXPCE33.INF と表示されていることを確認します。
「次へ」を選択します。

7. 完了のメッセージが表示されます。



これで、ドライバは新しくなりました。
Setup Disk1 を抜いてください。
「完了」を選択します。

更新されたかどうかの確認を行います。

1. 再度ドライバのタグを選択します。
製造元の日付が新しくなっています。
「ドライバファイルの詳細」を選択します。
2. ドライバの詳細が表示されます。
お問い合わせの際、このバージョンをお知らせください。

Windows 95 でドライバ更新する場合

Q:

インターネット等より、新しいドライバFDを入手したのだが組み込みには？

A:

ここでは、ハードディスクの DOWNLOAD ディレクトリの中に REX-PCI33 ディスクがダウンロードできているものとして説明します。

1. DOWNLOAD ディレクトリに PCI33_02.EXE (仮称) があることを確認します。
2. PCI33_02.EXE をダブルクリックして実行します。
3. 解凍実行画面が表示され複数のファイルが登場します。
4. PCI33_02.EXE ファイルを削除します。
5. DOWNLOAD ディレクトリのプロパティを参照して、DOWNLOAD ディレクトリが 1.44MB 以下の容量がチェックします。
6. 1.44MB フォーマット済みの空のフロッピーディスクを用意します。
7. DOWNLOAD ディレクトリ内のすべてのファイルを選択して、フロッピーディスクにコピーし、ラベルに REX-PCI33 Setup Disk 1 xx/xx/xx 版 (ReadMe ファイルのタイムスタンプ) と記載します。

新しいバージョンの Setup Disk1 が完成しました。続いて、ドライバの更新を行います。

1. コントロールパネルのシステムを開きます。さらにデバイスマネージャを選択します。SCSI コントローラをクリックし、「RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller」と表示されていることを確認します。RATOC REX-PCI33 PCI SCSI Controller を選択し、「プロパティ」を表示します。
2. ドライバのタグを表示します。
「ドライバの更新」を押します。
3. デバイスドライバウィザードが開始されます。
新しい Setup Disk1 をフロッピーディスクドライブにセットして、「自動検出をする」を選択します。
「次へ」を選択します。
4. ドライバ発見のメッセージが表示されます。
このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。と表示されることを確認して、「完了」を選択します。

5. 以下の画面が表示される場合があります。



「OK」を押します。

6. ファイルのコピー元を入力する画面になります。
フロッピーディスクドライブを選択し、「OK」を押します。
コピーが開始され、ドライバの更新が完了します。
Setup Disk1 を抜いてください。

5.6. については表示されない場合もあります。コピーが開始され、新しいドライバが実行されます。古いドライバに戻す場合、一度ドライバの削除 (P71) を行い、以前の Setup Disk1 を使用して新規インストールしてください。

データ転送中にハングアップしたり VXD 中断画面になったりする場合

Q:

データ転送中にハングアップしたり VXD 中断画面になったりします。

A:

- ・ SCSI ケーブルが良質のものか確認してください。
- ・ ターミネータはアクティブターミネータか確認してください。
- ・ SCSI ケーブル長が総計 1.5m 以内(Ultra の場合)であるか確認してください。
外付けユニット 1 台で約 15cm 使用します。
SCSI 機器の台数を減らしてみてください。
- ・ SCSI 機器台数が多いと自動ターミネータが正しく動作しない場合があります。
SCSI コンフィギュレーションの SCSI-BIOS の設定を実行して手動設定してください。

IDE の CD-ROM が使えない場合

Q:

IDE の CD-ROM が使えなくなりました。

A:

使用するパソコンによっては、セカンダリのマスタに接続してある CD-ROM が使えなくなる場合があります。この場合、セカンダリのスレーブに接続するか、プライマリのスレーブに接続を変更してください。

SCSI-BIOS スタート画面が表示されない場合

Q:

SCSI ボードが起動しません。(SCSI-BIOS スタート画面が表示されない)

A1:

PCI スロットにしっかり装着されていない場合がよくあります。
PCI スロットを搭載した初期のパソコンでよく起こります。
これはパソコンが完全にプラグアンドプレイに対応していないために発生します。
パソコンのシステム BIOS の変更を起動(パソコン起動時に何を押しせば起動できるか表示されています)して PCI スロットの構成変更を行ってください。
そこで、PCI スロットの番号 (REX-PCI33 をセットしたスロット番号) の定義に、割り込み番号を IRQ=11 を、I/O アドレスを FF00H に予約定義してください。
システム BIOS の変更を終了するとき構成を保存してください。

A2:

ボード上の J3 が BIOS OFF 側に設定されていないか確認してください。

SCSI 機器に対して転送速度を設定する場合 (Win98/95)

Q:

SCSI 機器に対して転送速度を設定したい。

A:

オペレーティングシステムでの設定は、有効となりません。

Windows 98/95 のデバイスマネージャのディスクドライブのプロパティ表示での「同期データ転送」設定は有効となりません。

SCSI-BIOS の設定を使用して、転送方式の項目で該当する SCSI 機器の速度に設定してください。

FUJITSU M0(M2512A,M2513A) を使用の場合

Q:

FUJITSU M0 を採用している古い M0 ドライブを接続するとハングアップします。

A:

FUJITSU M0 を採用している比較的古い M0 ドライブでこのような現象が発生することがあります。

ハングアップする場合、以下の手順で転送速度を 10MB/s に設定してください。

1. REX-PCI33 に接続している SCSI 機器の電源を OFF にします。
2. SCSI コンフィギュレーションを実行します。
3. FUJITSU M0 に該当する SCSI-ID の「転送方式」の値を 10MB/s に変更します。
4. [OK] をクリックして書き込み後、システムを終了してパソコンの電源を切ります。
5. REX-PCI33 に SCSI 機器を接続してパソコンを起動します。

ドライバがインストールされていないとなる場合 (Win98/95)

Q:

ドライバのインストールが正しく行われたにも関わらず、プロパティの画面でインストールされていないと表示され黄色の (!) エクスクラメーションマークになります。

A:

SCSI 機器との転送不具合の場合にこのようになります。

一度 SCSI 機器の電源を OFF にして立ち上げます。ドライバのプロパティが正常に動作していますと表示されていることを確認し、システム再起動して SCSI-BIOS の設定から最大同期転送速度を現在の設定値より小さな値に設定してください。

全体的なシステムのパフォーマンスが低下しますと表示される場合 (Win98/95)

Q:

コントロールパネルのシステムのプロパティのパフォーマンスを見ると「全体的なシステムのパフォーマンスが低下します」と表示されているのですがどうしてでしょうか。

A:

16 ビット版 ASPI マネージャ (ASP850.SYS) が登録されているためです。
CONFIG.SYS を編集して ASP850.SYS をコメントにしてください。

PD、Changer の一部が認識できない場合 (DOS/Windows 3.1)

Q:

DOS/Windows 3.1 で PD の CD-ROM が使用できない。または Changer の 2 枚目以降が使用できない。

A:

ASP850.SYS の /L オプションを付加してください。

スキャナを検出できない場合 (Windows NT)

Q:

スキャナソフトを起動すると、スキャナを検出できないというエラーが表示されて使用できません。

コントロールパネルの SCSI アダプタから確認するとスキャナは認識できています。

A:

Windows NT4.0 用の ASPI マネージャ (WNASPI32) が組み込まれていない場合に発生します。

REX-PCI33 には、Windows NT4.0 用の ASPI マネージャは添付しておりませんので、市販の Windows NT4.0 用の ASPI マネージャを別途ご用意ください。

ドライブ名が割り当たらない場合 (Windows NT)

Q:

RATOC REX-PCI33 SCSI Controller の下に OLIMPUS MOS341 (例) と表示されているが、マイコンピュータにリムーバブルアイコンが表示されません。

A:

D: ドライブに CD-ROM 等のアイコンがあり、それが D: ドライブ固定としてある場合おこります。ドライブ固定の設定を止めるか他のドライブ名を割り当てます。

変更の方法は、ディスクアドミニストレータで CD-ROM を選択状態にして「ドライブ文字の変更」を行います。

その他のデバイスに PCI SCSI BUS Controller が表示される場合 (Win98/95)

Q:

SCSI デバイスに登録されず、その他のデバイスに登録されてしまいました。
まだ、ドライバは読み込んでいません。

A:

PCI SCSI BUS Controller を選択し、プロパティのドライバ変更を選択します。
ハードウェアの選択画面で SCSI コントローラを選択します。ドライバディスクをセットしドライバの場所を選択してインストールします。

その他のデバイスに PCI Brige として登録される場合 (Win98/95)

Q:

SCSI デバイスに登録されず、その他のデバイスに登録されてしまいました。
まだ、ドライバは読み込んでいません。

A:

PCI Brige を選択し、削除キーを押してください。
システム再起動により “新しいハードウェア” の画面が表示されます。
後は、本文の記述に従ってインストールしてください。

PC98-NX でデバイスマネージャの画面が表示されない場合 (Win98/95)

Q:

ドライバの登録確認のため、デバイスマネージャの画面を表示しようとしてありません。

A:

PC98-NX では、標準で、キッズモードまたはベーシックモードに設定されています。
[プログラム]の[CyberTrio-NX]の[Go To アドバンストモード]を実行してください。
また、レジストリエディタを起動する場合も同様です。

PC98-NX で SCSI ハードディスクより起動する場合

Q:

PC98-NX (Fine を除く) で REX-PCI33 に接続したハードディスクより起動したいのですがどうすればできますか。

A:

DOS/V と同様、内蔵 HD を未接続(プライマリマスタをなし)にして(または取り外して)しまえば可能ですが、内蔵 IDE を D:ドライブとして使用することが可能です。

1. システム起動画面で「F2」を押して BIOS セットアップ画面を表示します。
2. 「起動」のタブより 1. ~ 4. の中に [取外し可能デバイス] があることを確認します。
3. 「ハードディスク」を選択します。 1. に [その他の起動ドライブ] がくるように設定します。
4. 設定を保存してシステム再起動してください。SCSI ハードディスクより起動を開始します。 [起動時のメニュー] が表示されるようになります。 Enter を押してください。

SCSI HD が second IDE HD より前のドライブ名となる場合

Q:

REX-PCI33 に接続された HD が、セカンド IDE に接続された HD のドライブ名より前のドライブ名に割り当てられます。

A:

Windows NT の場合、ディスクアドミニストレータでドライブ名の変更を行ってください。Windows 95 の場合、システムプロパティで MO, CD-ROM 等はドライブ名の変更ができますが HD はできません。REX-PCI33 の SCSI-BIOS の設定で「Enable Host Adapter BIOS」の項目を No : にします (コントロールしない)。

SCSI-BIOS の起動画面を非表示にしたい場合

Q:

REX-PCI33 の起動画面を表示しないようにしたい。

A:

REX-PCI33 に接続した機器からシステムを起動する必要がなければ、REX-PCI33 のボード上の J3 の設定で SCSI-BIOS を無効(OFF)にすると非表示になります。

SCSI-BIOS の設定で「Enable Host Adapter BIOS」を No にするだけでは、非表示にはできません。

UltraSCSI 対応機器が SCSI-2 と表示される場合

Q:

Ultra SCSI の機器を接続していますが、SCSI 機器接続ユーティリティ (WinSSC) で確認すると適合規格が「SCSI-3」と表示されず、「SCSI-2」と表示されます。

A:

適合規格の表示は、SCSI 機器側が返す値 (Inquiry データの ANSI バージョン) をそのまま表示しています。

UltraSCSI 対応の機器であってもその SCSI 機器側が、「SCSI-2」を返しているためこのような表示になります。

SCSI 機器側が、「SCSI-3」と返す場合は、「SCSI-3」と表示されます。

REX-PCI33 を装着するとシステム起動が遅くなる場合

Q:

REX-PCI33 を導入する前に比べて、システム起動時間が遅くなりました。

A:

仕様です。システム起動時にパソコンが REX-PCI33 を認識する処理と REX-PCI33 が接続している SCSI 機器を認識する処理が追加されるため、システム起動が 10 秒から 20 秒ほど遅くなります。起動が遅くなる時間がこの範囲であれば正常に動作しています。

不明なデバイスが検出されると表示の場合

Q:

スキャナを接続して REX-PCI33 をインストールすると「不明なデバイスが検出されました」と表示してドライバの読み込みが行われません。

A:

「不明なデバイスが検出されました」の表示は REX-PCI33 に対してではなく接続しているスキャナを検出したときに表示されるメッセージです。スキャナに Windows 98/95 のドライバ(INF)が添付されている場合は、デバイスドライバウィザードで読み込ませてください。添付されていない場合は、「完了」を押してください。次回からこのメッセージは表示されなくなります。詳しくは、スキャナメーカーにお問い合わせください。

フォーマットユーティリティ (REXFMT95) で CDR, CDRW, DVD が認識されない

Q:

Windows 98/95 用 SCSI フォーマットユーティリティ (REXFMT95) にて、接続されている CD-R, CDRW, DVD を認識できません。Windows 98/95 用 SCSI 機器確認ユーティリティでは確認できるのですが。

A:

Windows 98/95 用 SCSI フォーマットユーティリティ (REXFMT95) は、ハードディスク、MO、PD、リムーバブルディスクを対象としています。CD-ROM、CD-R、CDRW、DVD は対象としていません。初期化が必要な場合、ドライブメーカーにお問い合わせください。

SCSI 機器接続確認で準備ができていませんと表示される

Q:

Windows 98/95 用 SCSI 機器確認ユーティリティ (WINSSC) にて、接続されている CD-R, CDRW, MO 等を確認すると、Device Status の欄に「ドライブの準備ができていません」と表示されます。

A:

CD-ROM、CD-R、MO 等の場合、メディアが挿入されていないときには、「ドライブの準備ができていません」と表示されます。これで正常です。メディアを装着し、再度画面表示しますと「Ready」となります。

記入例：RATOC REX-PCI33 質問用紙（拡大コピーの上ご記入ください）

下記ユーザ情報をご記入願います。

法人登録の方のみ	会社名・学校名	ラトックシステム株式会社			
	所属・部署				
氏名	ラトック 太郎				
住所	〒 556-0012 大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル				
TEL	06-6633-8263	FAX	06-6633-8295	E-Mail	xxx@rexpccard.co.jp
製品型番	REX-PCI33	シリアル番号	PCI33xxxxx	NIFTY	XXX1234
販売店名	アール・ピー・エス		購入年月日	98/11/20	

下記パソコン環境情報をご記入願います。

パソコン機種名	自作機 (ASUS P2B-F Pentium 400MHz)
使用 OS	Windows 95 Windows 98 Windows NT4.0 DOS/Windows 3.1
接続 SCSI 機器に関する情報	<p>接続している全機器の種類・メーカー名・型番・その他についてご記入ください。 拡張 Slot: Slot 1 REX-PCI33 通常 CPU に近いほうが Slot 1 Slot 2 REX-CBS51</p> <p>ドライバのバージョン REXPCI33.MPD ファイルのプロパティ 10.1a-R03 (1998 2 26 4:24)</p> <p>SCSI 構成: WINSCC で表示される ID:0,LUN:0 (HardDisk) IBM DCAS-34330 ID:6,LUN:0 (CD-R) YAMAHA CRW4260</p>

質問内容：

CDR ドライブを増設したら動作が不安定になりました。

今まで正常に動作していた内蔵のハードディスクも不安定になりました。

それぞれ単体で接続した場合には問題ありません。

CDR ドライブは外付け用 68 ピンコネクタに REX-PCI33 添付の変換ケーブルで接続しています。

添付資料：インストール等に関するご質問の場合は、下記データが必要です。送付して頂いたデータをチェックしてください。

CONFIG.SYS AUTOEXEC.BAT SYSTEM.INI

Win95 デバイスマネジャのシステム概要 ¹ Windows NT 診断プログラムのレポート ²

1 デバイスマネジャのシステム概要 (Windows 95/98 のみ)

- (1) デバイスマネジャから [印刷(N)...] ボタンを押します。
- (2) レポートの種類に「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択して [OK] ボタンを押します。

2 Windows NT 診断プログラムのレポート (Windows NT のみ)

- (1) Windows NT 診断プログラムを起動し [ファイル] メニューから [レポートの印刷(N)...] ボタンを押します。
- (2) すべてのタブ、詳細レベル概要を選択して [OK] ボタンを押します。ファイルに出力してメールにて送信できます。

RATOC REX-PCI33 質問用紙 (拡大コピーの上ご記入ください)

下記ユーザ情報をご記入願います。

法人登録の方のみ	会社名・学校名				
	所属・部署				
氏名					
住所	〒				
TEL		FAX		E-Mail	
製品型番	REX-PCI33	シリアル番号		NIFTY	
販売店名			購入年月日		

下記パソコン環境情報をご記入願います。

パソコン機種名			
使用 OS	Windows 95	Windows 98	Windows NT4.0 DOS/Windows 3.1
接続 SCSI 機器に関する情報	接続している全機器の種類・メーカー名・型番・その他についてご記入ください。		

質問内容：

添付資料：インストール等に関するご質問の場合は、下記データが必要です。送付して頂いたデータをチェックしてください。

CONFIG.SYS

AUTOEXEC.BAT

SYSTEM.INI

Win95 デバイスマネジャのシステム概要 ¹ Windows NT 診断プログラムのレポート ²

1 デバイスマネジャのシステム概要 (Windows 95/98 のみ)

- (1) デバイスマネジャから[印刷(N)...]ボタンを押します。
- (2) レポートの種類に「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択して [OK] ボタンを押します。

2 Windows NT 診断プログラムのレポート (Windows NT のみ)

- (1) Windows NT 診断プログラムを起動し [ファイル] メニューから[レポートの印刷(N)...]ボタンを押します。
- (2) すべてのタブ、詳細レベル概要を選択して [OK] ボタンを押します。ファイルに出力してメールにて送信できます。